

平成28年度

大磯町教育委員会 の 点検・評価

(平成27年度対象)

大磯町教育委員会

平成28年11月

目次

はじめに

1 教育委員会とは	P 2
2 点検・評価の趣旨	P 3
3 点検・評価の対象	P 3
4 点検・評価の流れ	P 4

I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成 27 年度教育委員会活動一覧	P 5
2 項目別活動状況	P 6
3 項目別点検・評価（内部評価）	P 2 7
4 学識経験者による評価（外部評価）	P 3 2

II 「平成 27 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育	P 3 9
2 子育て支援	P 4 5
3 生涯学習	P 5 1
4 図書館	P 5 5
5 郷土資料館	P 5 8

III 資料編

1 関係法令	P 6 1
2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 6 1
3 平成 27 年度教育委員会基本方針	P 6 1

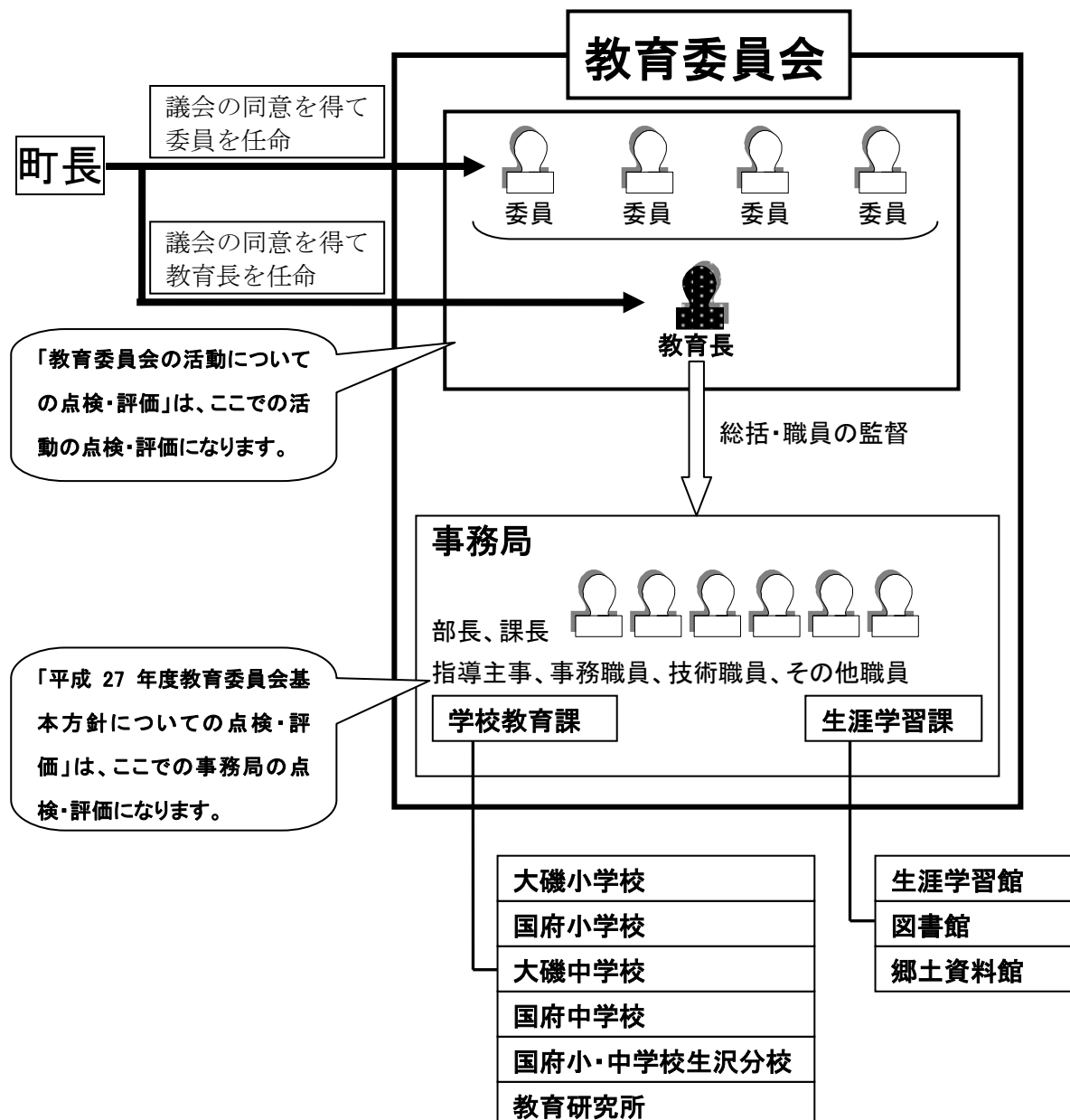
はじめに

1 教育委員会とは

(1) 教育委員会制度

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、教育長及び4人の委員をもって構成されています。
- 大磯町教育委員会教育長及び委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育長の任期は3年、委員の任期は4年で、再任されることもできます。
- 教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表（会議の主宰者、具体的な事務執行の責任者、事務局の指揮監督者）します。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に事務局が置かれています。事務局の内部組織は、教育委員会の規則で定められています。



(2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

2 点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

3 点検・評価の対象

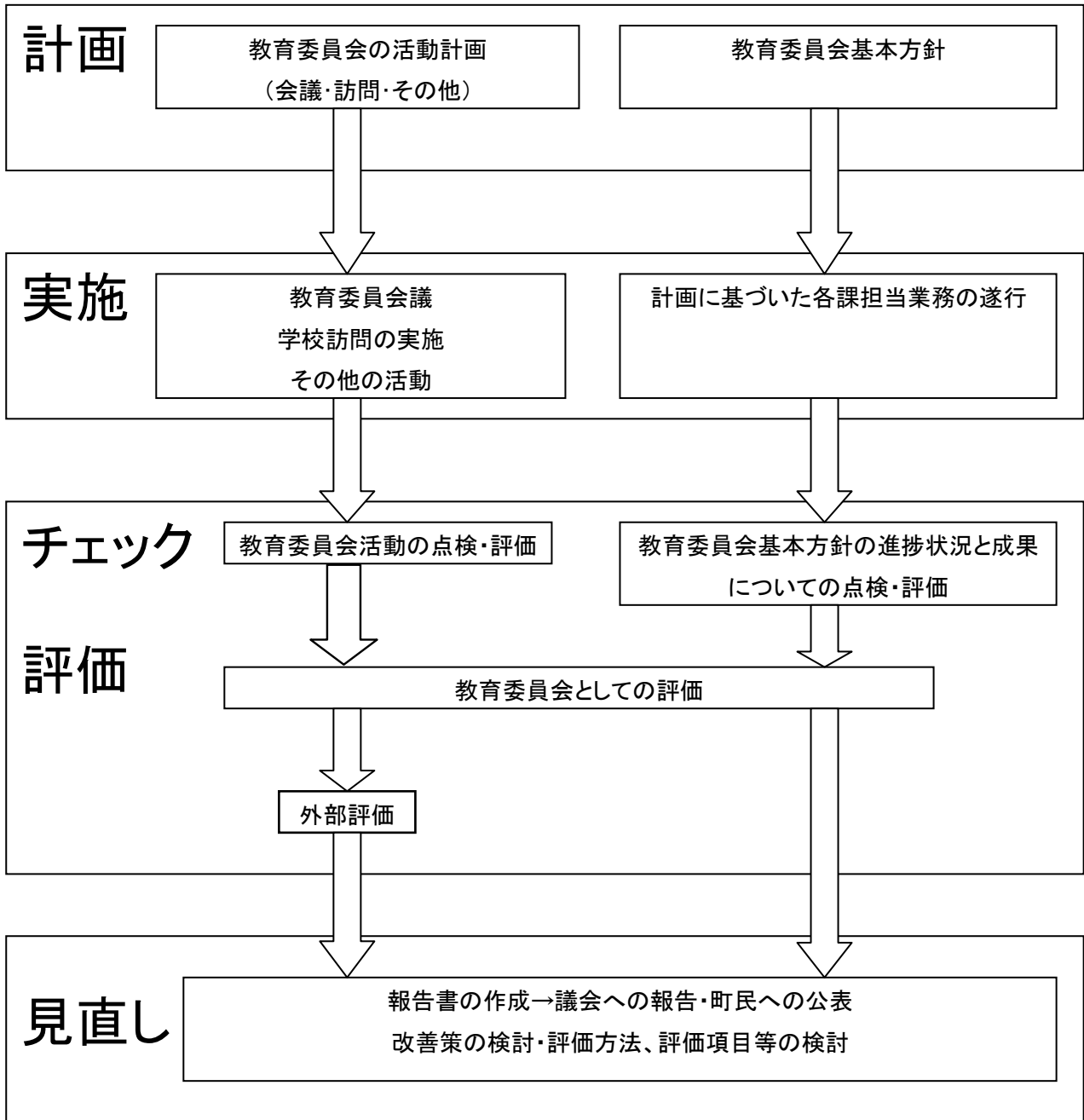
(1) 教育委員会の活動についての点検・評価

平成 27 年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者から内部評価の妥当性や指導・助言など外部評価をいただきました。

(2) 「平成 27 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

平成 27 年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

4 点検・評価の流れ



I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成27年度教育委員会活動一覧

会議名		内 容 等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	3回（7月、2月、3月）
総合教育会議		4回（5月、8月、9月、11月）
事務連絡調整会議		13回（定例会・臨時会開催後及び適宜）
意見交換会・懇談会	社会教育委員	1回（2月）
	地域住民 保護者	3回 国府中学校「地域フォーラム」（8月8日） 国府小学校「地区懇談会」（8月31日） 大磯中学校「地域ふれあいの集い」（9月19日）
訪問	幼稚園 保育園	4回（6月、7月、12月、2月）
	学校	5回（5月、9月、10月、11月、1月）
	行事等	運動会・体育祭、文化祭・保育発表会等、入学式・卒業式等、生涯学習関連事業、教育研究所関係事業、その他町行事等
その他の活動		神奈川県市町村教育委員会連合会総会・研修会 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会

2 項目別活動状況

(1)教育委員会議・総合教育会議

①教育委員会議

平成27年度

第1回定例会〔平成27年4月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第1号	平成27年4月補正予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第2号	大磯町立図書館の臨時休館について
	議案第3号	大磯町郷土資料館の臨時休館について
協議事項	協議事項第1号	教育長職務代理者の指定について
報告事項	報告事項第1号	平成26年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
	報告事項第2号	平成27年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第3号	第4回大磯Challenge Liveの実施結果について

第2回定例会〔平成27年5月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第4号	平成27年6月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第5号	平成28年度大磯町立小中学校で使用する教科用図書の採択方針について
	議案第6号	大磯町附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例について
報告事項	報告事項第1号	平成27年第1回（4月）大磯町議会臨時会について
	報告事項第2号	「大磯の災害」パネル展の開催について
	報告事項第3号	企画展「昭和の子供たち—子供の遊びと暮らし—」の実施結果について

第3回定例会〔平成27年6月18日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	平成27年第2回（6月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町幼・保・小・中一斉引渡し訓練の実施結果について
	報告事項第3号	大磯町文化財専門委員の委嘱について
	報告事項第4号	大磯町指定民俗資料「高麗の山神輿」の実施結果について
	報告事項第5号	企画展「海の中の植物・海藻 ～いろいろな色 いろいろな形～」の開催について
	報告事項第6号	歴史講座「大磯と空襲」の開催について

第4回定例会〔平成27年7月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第7号	平成27年7月補正予算における教育委員会予算要求について
協議事項	協議事項第1号	町立国府幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行について
報告事項	報告事項第1号	図書館教養講座『資料と映像でたどるモダン・ジャズの歴史』の開催について
	報告事項第2号	旧吉田茂邸再建検討会議の中間報告について
	報告事項第3号	「大磯の災害」パネル展の実施結果について

第1回臨時会〔平成27年7月30日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第8号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第9号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について

第5回定例会〔平成27年8月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第10号	平成27年9月補正予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第11号	大磯町いじめ問題対策・調査委員会委員の委嘱について
	議案第12号	工事請負契約の締結について
報告事項	報告事項第1号	平成26年度教育委員会所管決算見込みについて
	報告事項第2号	平成27年第2回（7月）大磯町議会臨時会について
	報告事項第3号	歴史講座「大磯と空襲」の実施結果について
	報告事項第4号	第1回大磯町放課後子ども総合プラン連絡調整会議の報告について

第6回定例会〔平成27年9月24日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第13号	工事請負契約の締結について
	議案第14号	大磯町いじめ問題対策・調査委員会規則について
協議事項	協議事項第1号	教育長職務代理者の指名について
報告事項	報告事項第1号	中学校部活動夏の大会結果について
	報告事項第2号	いじめ問題対策・調査委員会の開催結果について
	報告事項第3号	平成27年度人権教育講演会の開催について
	報告事項第4号	第62回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第5号	おはなしボランティア養成講座『おはなしを語るために』の開催について
	報告事項第6号	秋季企画展「用田村伊東宗兵衛家文書の世界—古文書が結ぶ二つの地域—」の開催について

第7回定例会〔平成27年10月15日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第15号	大磯町立中学校給食・調理配送等業務委託事業者の選定について
	議案第16号	大磯町立幼稚園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
	議案第17号	大磯町立幼稚園園則の一部を改正する規則について
協議事項	協議事項第1号	平成27年度大磯町教育委員会の点検・評価(案)について
報告事項	報告事項第1号	平成27年度第3回（9月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
	報告事項第3号	平成27年度優良PTA神奈川県教育委員会表彰について
	報告事項第4号	第14回大磯図書館まつりの開催について
	報告事項第5号	図書館教養講座「資料と映像でたどるモダン・ジャズの歴史」の実施結果について
	報告事項第6号	企画展「海の中の植物・海藻～いろいろな色 いろいろな形～」の実施結果について
	報告事項第7号	旧吉田茂邸再建検討会議の開催結果について

第8回定例会〔平成27年11月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第18号	平成27年度大磯町教育委員会の点検・評価について
	議案第19号	平成27年12月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第20号	大磯町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例について
協議事項	協議事項第1号	平成28年度教育委員会当初予算要求に係る協議について
	協議事項第2号	大磯町立小学校給食費の改定及び町立中学校給食費の設定(案)について
報告事項	報告事項第1号	平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
	報告事項第2号	平成27年度人権教育講演会の実施結果について
	報告事項第3号	おはなしボランティア養成講座『おはなしを語るために』の実施について
	報告事項第4号	町立幼稚園の応募状況について
	報告事項第5号	幼保ふれあい交流会「いそっこフェスティバル」について

第9回定例会〔平成27年12月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第21号	大磯町郷土資料館の臨時休館について
報告事項	報告事項第1号	大磯町生涯学習推進連絡調整会議設置要綱の一部を改正する要綱について
	報告事項第2号	登録有形文化財の登録について
	報告事項第3号	平成27年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの開催について
	報告事項第4号	平成27年度文化財消防訓練の実施について
	報告事項第5号	左義長の撮影について
	報告事項第6号	第62回おいそ文化祭の実施結果について
	報告事項第7号	第14回大磯図書館まつりの実施結果について
	報告事項第8号	秋季企画展「用田村伊東宗兵衛家文書の世界—古文書が結ぶ二つの世界—」の実施結果について

第10回定例会〔平成28年1月15日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第22号	平成28年度当初予算における教育委員会予算要求について
	議案第23号	学校と警察との相互連携に係る協定の締結について
	議案第24号	大磯町立の中学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例について
協議事項	協議事項第1号	平成28年度教育委員会基本方針(案)について
報告事項	報告事項第1号	平成27年度第4回(12月)大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	中学校給食の開始について
	報告事項第3号	平成27年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの実施結果について
	報告事項第4号	町立国府幼稚園の統廃合に伴う認定こども園の誘致について

第2回臨時会〔平成28年2月8日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第25号	平成28年3月補正予算における教育委員会関連予算要求について
	議案第26号	工事請負契約の変更について

第11回定例会〔平成28年2月18日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第27号	平成28年度大磯町教育委員会基本方針について
	議案第28号	平成27年度大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について
	議案第29号	平成28年度大磯町立幼稚園における休業日の変更について
報告事項	報告事項第1号	第5回大磯Challenge Liveの開催について
	報告事項第2号	平成27年度文化財消防訓練の実施結果について
	報告事項第3号	児童文学講演会「絵本が生まれる時」の開催について
	報告事項第4号	「大磯の災害」パネル展の開催について

第3回臨時会〔平成28年3月9日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第30号	県費負担教職員の任免に係る内申について
	議案第31号	平成27年度旧吉田茂邸再建事業に関する協定の変更について
	議案第32号	平成28年度旧吉田茂邸再建事業に関する協定の締結について

第12回定例会〔平成28年3月25日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第33号	教育委員会事務局職員及び教育施設等の職員の人事異動について
協議事項	協議事項第1号	教育長職務代理者の指名について
報告事項	報告事項第1号	平成28年大磯町議会3月定例会について
	報告事項第2号	第2回いじめ問題対策・調査委員会の開催結果について
	報告事項第3号	「大磯の災害」パネル展の実施結果について
	報告事項第4号	大磯町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について

②総合教育会議

区分	月 日	協議事項
第1回	5月13日（水）	・大磯町総合教育会議について ・大磯町教育大綱の策定について
第2回	8月21日（金）	・大磯町教育大綱の策定について
第3回	9月30日（水）	・大磯町教育大綱の策定について
第4回	11月25日（水）	・大磯町教育大綱の策定について ・平成28年度教育関連施策及び予算について

(2) 事務連絡調整会議

月日	項目	内容
4月16日 第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合教育会議について 2 篤志家からの寄附について 3 平成26年度保護者負担金の状況について 4 大磯小学校給食異物混入について 5 国府小学校児童の状況について 6 国府中学校修学旅行に係る案件について 7 教科用図書採択の日程調整 8 行政情報公開審査会について 9 大磯町子ども笑顔かがやきプランについて 10 教育委員と社会教育委員の懇談会について 11 大磯町指定民俗資料「高麗の山神輿」の開催について 12 大磯町社会教育委員の委嘱について 13 大磯町立図書館協議会委員の委嘱について 14 大磯町郷土資料館運営委員の委嘱について 	<p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>
5月20日 第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合教育会議における大綱の策定について 2 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会参加について 3 「児童・生徒が安全・安心に生活するための申し合わせ事項」について 4 幼・保・小・中一斉引渡し訓練について 5 教科書採択の調査研究について 6 中学校運動会について 7 花苗の寄贈について 8 国府中学校修学旅行に係る案件について 9 中学校給食導入スケジュールについて 10 国府小学校給食アレルギー対応について 11 子育て世帯臨時特例給付金について 12 大磯幼稚園の園児の件について 13 大磯町幼保ふれあい交流会について 14 大磯町指定民俗資料「高麗の山神輿」「国府祭」実施報告 15 旧吉田茂邸内の埋蔵文化財について 16 郷土資料館のリニューアルについて 	<p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>出席者の調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>
6月18日 第3回	<ol style="list-style-type: none"> 1 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会参加報告について 2 大磯町いじめ問題対策・調査委員会委員の委嘱について 3 教育委員会の点検・評価について 4 居所不明児童について 5 中学校給食導入について 6 国府中学校就学旅行に係る案件について 7 教科書採択の日程について 8 大磯町放課後子ども総合プラン連絡調整会議について 9 図書館職員の事故について 10 嶋立庵の指定管理について 11 エリザベス・サンダース・ホーム内の試掘調査について 12 ハワイ大学講師来訪について 	<p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>説明</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>

月日	項目	内容
6月18日 第3回	13 図書館学級招待の実施結果について 14 郷土資料館のリニューアルについて 15 旧吉田茂邸内の埋蔵文化財について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
7月16日 第4回	1 神奈川県教育委員会連合会研修会について 2 総合教育会議の開催について 3 大磯町いじめ問題対策・調査委員会委員の委嘱について 4 教育委員会点検・評価について 5 地区懇談会への出席調整について 6 国府中学校修学旅行に係る案件について 7 子育てガイドブック改訂版の発行について 8 夏休み放課後子ども教室について 9 大磯幼稚園トイレ改修工事について 10 社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホーム認定こども園について 11 保育料の設定について 12 エリザベス・サンダース・ホーム内の試掘調査について	協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 説明 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告
8月20日 第5回	1 8月21日開催予定の総合教育会議について 2 子ども議会の開催について 3 教育委員会点検・評価について（委員評価の調整） 4 人事上の措置について 5 中学校給食導入に向けての準備状況について 6 生徒部活動・夏の大会結果について 7 町立国府幼稚園の統廃合に伴う説明会の報告について 8 小児医療費助成対象者の拡充について 9 小磯幼稚園の件について 10 寝屋川で発生した案件について	情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整
9月24日 第6回	1 神奈川県市町村教育委員会連合会研修会の出席者について 2 国府幼稚園訪問について 3 平成27年度全国学力・学習状況調査結果について 4 平成28年～31年度使用公立中学校採択教科書について 5 小学校運動会出席について 6 教育委員会点検・評価について（基本方針の委員評価の調整） 7 人事上の措置について 8 中学校給食導入に向けての準備状況について 9 国府中学校修学旅行案件について 10 町立幼稚園の通園区域の廃止等について 11 寄附金について 12 社会教育委員との懇談会について 13 総合教育会議について	協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 出席者の調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整
10月15日 第7回	1 平成28年度予算編成方針について 2 平成28年度教育委員会予算編成スケジュールについて 3 中学校給食導入に向けての準備状況について 4 マイナンバー制度に係る条例の整備について 5 国府中学校体育館耐震補強改修工事説明会について 6 児童虐待防止推進月間について	情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告

月日	項目	内容
10月15日 第7回	7 入園説明会について 8 幼保ふれあい交流会「いそっこフェスティバル」について 9 埋蔵文化財発掘現場説明会の開催について 10 人権教育講演会の開催について 11 総合教育会議について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
11月19日 第8回	1 総合教育会議について 2 教育委員会定例会会議録記載内容に係る削除要望について 3 学校警察連携制度の締結について 4 教育研究所及び適応指導教室の明け渡し要望について 5 行政情報公開請求について 6 12月議会について 7 中学校給食導入に向けての準備状況について 8 認定こども園「あおばと」について 9 平成27年12月補正予算における子育て支援課予算要求について 10 大磯町保育所条例等の一部を改正する条例について 11 埋蔵文化財調査現場説明会について 12 国登録文化財について 13 社会教育委員との懇談会について 14 郷土資料館の臨時休館について	情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告
12月17日 第9回	1 教育委員会定例会会議録記載内容に係る削除要望について 2 教育委員会臨時会の開催について 3 平成28年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会参加について 4 平成28年度当初予算査定状況について 5 大磯町議会12月定例会について 6 大磯町情報公開審査会答申について 7 学校警察連携制度の締結について 8 大磯小学校グラウンド工事説明会について 9 平成28年度大磯町教育委員会基本方針策定について 10 中学生英文朗読大会（1月23日）のお知らせ 11 中学校給食導入に向けての準備状況について 12 篤志家からの寄附について 13 教育委員と社会教育委員の懇談会について 14 旧吉田茂邸再建検討会議について 15 指定文化財の展示について	協議・調整 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告
1月15日 第10回	1 教育委員会定例会会議録記載内容に係る削除要望について 2 国府中学校体育館耐震補強改修工事の契約変更について 3 小学校における通知票の誤記載について 4 中学校給食について 5 大磯町情報公開審査会答申を受けての対応について 6 教育委員と社会教育委員との懇談会について 7 大磯の左義長のテレビ放送について 8 平成28年度成人式について 9 「大磯の災害」パネル展について 10 朝の子どもの居場所づくり事業について	協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告

月日	項目	内容
2月18日 第11回	1 3月臨時会の日程調整について 2 平成28年度定例会の日程について 3 教育長職務代理の指名について 4 民生委員推薦会員の推薦について 5 一般質問について 6 卒業式及び文化スポーツ優秀者表彰出席者調整について 7 体罰調査の結果について 8 平成27年度全国学力・学習状況調査結果に係る情報提供要望について 9 教育研究所講演会への出席について	協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 出席者の調整 情報提供・報告 協議・調整 出席者の調整
3月9日 第12回	1 卒業式及び文化スポーツ優秀者表彰出席者について 2 入園式及び入学式出席者について 3 組体操の実施状況について 4 教科書発行者と教員の関係について 5 中学校における進路指導の課題について	協議・調整 協議・調整 報告・協議 情報提供・報告 情報提供・報告
3月25日 第13回	1 入園式・入学式の出席調整について 2 平成28年度教育委員会定例会及び学校訪問日程について 3 辞令交付式（3/31, 4/1）について 4 中学校給食の実施状況について 5 国府中学校の件について 6 生涯学習関連行事（チャレンジライブ、児童文学講演会）の参加人数速報 7 大磯町青少年指導員の委嘱について 8 寄附金による児童書の購入について 9 朝の子どもの居場所づくり事業について	出席者の調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告

(3)意見交換会・懇談会

①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会

平成27年度は未実施

②社会教育委員との意見交換会

日 時	平成28年2月8日(月)
場 所	大磯町役場 4階第2委員会室
参 加 者	教育委員、社会教育委員、事務局職員(参加者17名)
意見交換会の主な内容	<p>○自己紹介</p> <p>○各委員会の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ委員会の概要と立場について共通理解を求める。 ・平成27年4月に施行された新教育委員会制度と総合教育会議による町教育大綱の確認。 <p>○懇談「大磯らしい生涯学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町外からの大磯の印象は落ち着いた知性的な雰囲気。「らしさ」をどのように発信していくかは難しさがある。 ・町民も気付かないような良いところもあるが、それをどう伝えていくか。 ・大磯と国府の気概の違いも見取れる。まちづくりの観点から大磯らしさを考えることも必要。 ・価値観をどのように共有していくか。伝統の中に新しい風をどのように取り入れていくのか。 ・大人も子どもも学習していく姿勢が大切。 ・小さな町ならではの顔見知りの環境が残されている。 ・何よりも人が資源であることを忘れない。

③中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集い・小学校地区懇談会への参加

日 時	平成27年8月8日(土)	
場 所	国府中学校 視聴覚室 (国府中学校地域フォーラム)	
日 程	挨拶 神奈川県警少年相談保護センター 青少年補導員による講演 グループ協議 学校長挨拶	14:00～ 15:30
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	保護者、地域の方、大磯警察少年補導員、学校教職員等(参加者約40名)	
フォーラムの主な内容	<p>○ 神奈川県警少年相談保護センター 青少年補導員による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年と成年の違い ・非行少年の数の推移 ・ネット関係のトラブル(SNSいじめ・個人情報流出) ・現在の傾向(窃盗・万引き、凶悪化、低年齢化、性的な問題) ・問題の潜在化 ・ネット依存の問題 ・子どもの課題(コミュニケーション能力の低さ、幼さ、衝動的、流されやすい) <p>○グループ協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと地域にかかわってもらいたいので、中学生にも役割や目的を持たせ、「地域のためになった」という責任感を感じさせたい。 ・県内の中学生にかかわる痛ましい事故を受け、ささいな変化でも地域で見ていきたい。 ・あいさつを交わすことや、地域で声かけすることはやはり大切。 ・大人もSNSを理解し、親子のコミュニケーションを大事にしていく。 	

日 時	平成27年8月31日(月)	
場 所	国府小学校体育館2階ミーティングルーム(国府小学校地区懇談会「月京地区」)	
日 程	参加者による懇談	10:00～ 12:00
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	月京区長、民生委員、主任児童委員、国府小学校保護者、学校職員等 (月京地区参加者約10名)	
懇談会の主な内容	<p>【懇談】テーマ「災害時、子ども達と守るために私たちができること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分で守る時代になった ・地域はとてどもまとまっている状況であり、より一体化を目指す ・災害時の学校の対応について <ul style="list-style-type: none"> 登下校時の判断ポイント 家庭の判断も日頃から密に 学童との連携も視野 ・地域の訓練に子ども達も参加してほしい ・何回も訓練することで安心感につながる ・子どもSOSの活用を <ul style="list-style-type: none"> 在宅していないので引き受けられないケースも増えている 子ども達が知らない人に話しかけられず、存在を分かっているも頼れないことも もっと地域として周知させていくことが大切 様々な場面を通して、地域で顔見知りになる必要がある ・東海大学大磯病院とのかかわり（公共性のある場所は、地域にオープンに） ・町内会や子ども会への入会促進を 	

日 時	平成27年9月19日(土)	
場 所	大磯中学校体育館(大磯中学校地域ふれあいの集い)	
日 程	PTA会長挨拶 講演「大磯中学生が教えてくれること」青木弘校長 グループ協議 教頭挨拶	14:40～ 16:00
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	生徒代表、保護者、地域の方、学校職員等(参加者約60名)	
懇談会の主な内容	○ 講演「大磯中学生が教えてくれること」青木弘校長 <ul style="list-style-type: none"> ・磯中クイズ ・大磯中学生が教えてくれること ・全国学力調査の結果から ・今の時代の子ども達 ・企業が新卒採用時に重視する内容 ・20年後はどんな社会になっているのか ・全教職員で取り組む研究活動 ・大磯中学校には、さまざまな場面に子ども達の笑顔がある ○ グループ協議「20年後を生きる中学生のために、保護者・地域・学校は何ができるのか？」 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒より～社会人として、自分と違った考え方を受け止められる人になりたい。また、他者と共同で創り上げるなど、コミュニケーションを大切にしたい。 ・保護者～今の価値観や数値を気にしてしまうが、人と人をつなげるような大人になってくれることを保護者の立場として期待したい。 ・教職員～これからのを支える中学生達のこと、地域のことを、それぞれの立場で一緒に考えてほしい。未来を創り上げる生徒をそれぞれ立場で支えていく。 	

(4) 訪問

① 学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	大磯中学校	
日 時	平成27年5月20日(水) 13:10～16:30	
日 程	開会	13:10
	授業参観	13:30～14:20
	学校教育活動の概要説明	14:30～15:20
	職員との懇談	15:30～16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、各グループリーダー、養護教諭、事務主査	
懇談会の主な内容	<p>【学校教育活動の概要説明】 ・昨年度アンケート結果より～特に、「わからないことを積極的に質問することができましたか・積極的に話し合いに参加し、意見を述べることができましたか・悩みなどを先生やスクールカウンセラーなどの大人に相談できますか」に「不十分・いいえ」が多かった。 ・制服の自由化について～性同一性障害の方にとって、制服がないのはよい。きちんと生徒と向き合うことが大切。制服についての議論はいつもあるし、どちらがいいかも常に考えていく。制服が自由化になった経緯は伝えていく。</p> <p>【職員との懇談】 [1年]・集会の時など、静かに並ぶことができる。・緊張も解け、指導が増えてくる時期。・明るく元気だが、人間関係の難しさを感じる場面がすでにあった。・授業に目を輝かせている生徒と、学習する習慣のない生徒がいて、ノートの取り方等、これから指導していく。・特別支援級の3人を、早く学校という波に乗せていきたい。 [2年]・今のところ順調である。 [3年]・修学旅行に向けての班編成について。・卒業までにはストレスに対してもタフになってほしいと職員で話している。 [学習指導グループ]・落ち着いて取り組んでいるが、評価については課題。教科別に伝える機会も設けているが、どう発信するのか。わかってもらえるようにしたいし、教科面談で個別に保護者や生徒にも対応している。嫌な気持ちにならず、やる気の出るような評価にしたい。 [生徒・指導グループ]・生徒指導においては大きくは手がかからない。・生徒会は、生徒に丸投げにはせず、型もつくりながら、自分たちで考えられるように。「自立と健康」をこれからも目指す。 [進路・支援グループ]・支援:友達付き合い、発達に関する課題など、各クラスに心配な生徒が全校で15人、あがっている。注意深く見るようにしていく。・進路:1年生は職場体験に向けて準備中。 [保健・安全グループ]・保健:病院を受診する怪我は今のところ7件。・安全:各訓練を年間の行事として実施する。 [管理・情報グループ]・管理:生徒の安全のための環境整備。・情報:プロジェクターや電子黒板の整備。(電子黒板は2台壊れている→委員会に報告済)テレビもいいものを見せられるとよい。 [事務部]・生徒の学習に必要なものと、施設・設備・管理面とのバランスを考えて、予算を考えていきたい。 ◇明るく元気な生徒たちだが、心の悩みを相談してくるのか。内面的なものはどうなのか。ストレスを乗り越える力はあるのか。 →保健室にもカウンセラーにも、心の相談員にも相談は少ない。雑談の中で出ることはあるが、件数的には少ないと思う。 →よく見てみると、心配な生徒はいる。それぞれの立場やたくさん目で見えていく。 ○評価について、地域から、「えこひいき」という声もきく。「えこひいき」はできない評価システムであるし、威厳(責任)をもって説明してほしい。</p>	

訪問学校・園名	大磯幼稚園	
日 時	平成27年6月18日(木) 13:15 ~ 15:20	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20~14:00
	職員との懇談	14:20~15:20
	閉会	15:20
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	園長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について】本園の今年度の研究主題は「体力向上を育むための教師のかかわりについて」。</p> <p>教員の資質向上のために、今年度は年間に6回、講師を呼んで研修を行う予定。異年齢交流(お弁当の時間等)にも力を入れている。地域の方の各種「教室」の内容も、日々の実践に生かしたいと考えている。「そだれん」(子どもの自立を促し、親も怒鳴らない子育て)も実施している。他の園や小学校との交流も行っている。また安全教育として、不審者・火災・地震・津波対応の避難訓練を月に一回実施している。</p> <p>【懇談】～担任より各クラスの様子について説明</p> <p>年少さくら組:20名。4月当初はお母さんから離れられない園児もいたが、今はいない。友達のことにも気になり始め、友達がもっているものを欲しくなったり、追いかけたりし始めた。これを機会に友達の気持ちも考えられる子どもになってほしい。配慮の必要な子は3名。支援員がついている。1年を通して、また3年間を通して成長してほしいので、そのための工夫をしていきたい。</p> <p>年少たんぼ組:20名。初めての幼稚園の生活であり、着替えやトイレもまだまだのところはあるので、支援員に手伝ってもらっている。当初、泣いていた子も良くなってきた。保護者も園は初めてなので、わかりやすく話したり、声掛けを頻繁に行ったりして、安心して園での生活を送れるようにしていきたい。「なかよしタイム」で年長児が来て歌を歌うのも、年少児にとっては良い機会。運動も楽しみながらさせたい。支援の必要な子に関しては、心理士の巡回相談をうまく利用していきたい。</p> <p>年中ゆり組:年少から人数も5名増え29名。新しい友達、新しい先生、また2階の新しい教室と、環境が急に変わったためか、最初は泣いている子もいた。今は友達と遊ぶ楽しさも面白い、安心して過ごせている。生活リズムも身に付き、身の回りのことも自分でやろうとしている。外では砂場で水を使って遊んだり、元気に追いかけてっこをしたりしている。室内では段ボールを使ってのごっこ遊びと、遊び方もダイナミックになっている。ただ、個人差はあり、部屋から出てしまいう子もいるが、支援員がついている。支援員がいるおかげで、全体を見ながら個々の一人ひとりを見ることが出来る。楽しく過ごしながら、元気にあいさつできる子、自分でできる子、話を聞ける子になってほしい。また体力もつけていきたい。それから、年少児には優しく、年長児にはあこがれながら、異年齢交流もしていきたい。</p> <p>年中すみれ組:28名。だいぶ落ち着いてきた。制作に集中して取り組むことができる。いろいろな色も使えるようになってきた。特別支援の園児には支援員がつく。担任としても、支援員に頼るばかりにはせず、一人ひとりを見て考えながら対応していきたい。</p> <p>年長ふじ組:29名。活発で虫さがしが大好き。友達とのつながりも深まってきた。自分で考える子になってほしい。脳性麻痺の園児には加配の職員がついている。みんなも一緒に支え合っ、助け合える子どもになってほしい。異年齢交流での「なかよしランチ(年少児のクラスでお弁当を食べる)」の後は嬉しそうに帰ってくる。年長として自信がついてきた様子。</p> <p>年長ばら組:30名。あこがれの年長になった。やるときはやり、遊ぶときは遊べる子になっているが、うまく手を抜くことも覚えてきた。「先生はいつでも見ているよ」というメッセージを常に送っていききたい。制作が好き。虫やザリガニを身近に飼って楽しんでいる。ルールのある遊びができるようになってきた。わからない子に友達が教える姿も。年中・年少児のことも好きで、幼稚園全体のことも気にしてくれる。保護者もとても協力的。明日は「なす」で味噌汁づくりをする予定。家庭ではお椀も自分で用意するよう、保護者に協力を求めた。</p> <p>○ピアノの伴奏で歌を歌っていたのがよかった。とても幼稚園らしい。</p> <p>○帰りの場面を見たが、お母さんに抱きついていて、かわいらしかった。先生がとても細かいところにも気を配ってやっていた。園児も楽しそうだった。</p> <p>→PTAの保護者がとても協力的。本部役員が7名。クラス委員が各3名ずつ。子ども達を楽しませようと、発想豊かに母親たちがやってくれている。</p>	

訪問学校・園名	国府保育園	
日時	平成27年7月16日(木) 13:15 ~ 14:45	
日程	開会	13:15
	保育参観	13:15~13:45
	職員との懇談	13:45~14:45
	閉会	14:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	園長、園長補佐、各担当職員	
懇談会の主な内容	<p>【国府保育園の保育実践について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員39名、和ができています。 ・園児への対応面について、幼稚園も保育園もほとんど変わりはない。しかし、保育園は完全給食により食育ができています。保護者も忙しい中お弁当など作っているが、やはり皆で同じものを食べて育つ場は大事であると感じている。 ・年中、年長は月1冊の絵本学習を実施。食後の短い時間に集中して、話を聞きながら自分で考える力を1年通じて身に付けさせたい。 ・子どもの熱は37.5℃が基準となる。しかし、状況をまめに仕事場に連絡すると、働いている親に気を遣わせてしまう。子どもの様子と親の都合、親子の気持ちを考えるなどしながら対応している。病児保育が求められているのではないかと。 ・竹馬など、保育園伝統の遊びがある。上の子から下の子へ代々引き継がれているので、この伝統は大事にしていきたい。園庭の狭さを利用し、お互いに遊んでいる姿が見える。他の子ができた姿が刺激となって自分もやってみようという態度が育つ。 ・年少児は保育園の中で環境が大きく変わる。年度当初はなれるまで大変だが、多くの先生達が支援してくれるので、落ち着いてきた。 ・お互いを思いやる子どもが増えていると実感している。 <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○とても豊かな表情の子に会えてとても嬉しい。 →個別支援が必要な子であるが、人懐っこい面がある。周りの子も受け入れている。 ◇うつ伏せして寝ている子が多いが？ →胸がどこかにくっついている方が落ち着くのでは。あるいは、抱っこ紐等の影響で親と密接して寝る習慣ができていないのではないかと。重大な事故にならないように呼吸のチェックは密に行っている。 ◇トイレが少ないように感じたが、足りているか？ →確かに足りない時もあるが、現在のところ作る場所もない。 <p>○小・中学校で見られる場面(先生の発問に挙手して応える等)が保育園でも見ることができた。保育園での実践が確かに小・中学校に繋がっていると実感できた。</p> <p>○先生方が家族のような雰囲気(父・母・兄姉?)を出している。それぞれの役割を自覚して対応ができていますので、子ども達に良い影響を与えているのではないかと。</p>	

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成27年9月24日(木) 13:20 ~ 16:00	
日 程	開会	13:20
	授業参観	13:30~14:20
	職員との懇談	14:40~16:00
	閉会	16:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【担当者から教育活動の概要説明】</p> <p>① 教育課程について・国府中学校はもうすぐ70周年を迎える。 ・3年生が受検に向けて校長と面接練習をしているが、学校目標をみんなが言える。 ・人権に関しては、JICAより講師を呼び、世界の子どもの様子を聞く。</p> <p>② 学校研究について・6月の公開授業では、個人テーマを決めた。 ・第2回は、各学年1クラスで研究授業を行う予定。 ・保護者にも公開授業を見てもらいたいが、現状としては見に来る保護者の数は少ない。 ・生徒は素直で純朴だが、小集団から始め、主体的に学びに向かう子になってほしい。 ・8月には小中で共同研究した。貴重な機会なので、これからも続けたい。</p> <p>③ 各学年及びふれあい学級の生徒の様子 [1年]・学習で困難を感じている生徒が多い(九九ができない。カタカナ・ひらがなが書けない。) ・面倒見がいいのが特徴(特に女子が男子をみる)。3年間で男子も自立するよう育てたい。 ・学習以外は明るく、行事好き。成功体験が自信につながるとうよい。 [2年]・33名のクラスが3クラス。少ない女子の半数が吹奏楽部。 ・水曜日は毎週学年朝会をやり、実行委員制度でリーダーとしての力を発揮させたい。 ・あげ足をとったり、マイナスの発言をしたりする生徒がいないのが良いところ。 [3年]・おだやか。クラス分けに配慮したのがよかった。 ・部活の夏の大会が終わってからも、いよいよ2学期のスタートがきれた。 ・集金の未納が1割もある。また、体育館の工事で、卒業式ができるかどうか心配である。 [ふれあい]・2・3年生8名が穏やかに過ごしている。</p> <p>④ 教育相談関係・生徒指導について ・カウンセラーの需要がとても高い。不登校で良くなっているケースもある。 ・家庭の事情で、保護者も、そして子どもも不安定になっているケースがある。 ・大きな出来事はないが、SNSトラブルや、ゲームにはまってしまっている子もいる。 ・携帯、スマホ、ゲームについては、家庭でのルールを例を示すなど、家庭との連携も重要。 ・部活での指導が生活面でも有効だが、校外のクラブチームの子に指導が行き届かないのが課題。</p> <p>⑤ 健康面について ・保健室に来るのは常連の女子が多い。9月までで800人。例年よりは少ない。 ・保健室で休んでいる生徒を気遣うやさしさがみられる。 ・7月の学校保健委員会では、睡眠に課題があると感じた。</p> <p>⑥ 施設面について ・体育館は工事が始まるが、校舎は35年が経ち、建具もそのまま、職員作業では対応が難しい。 ・生徒が穏やかなので、生徒が壊すようなことはない。</p> <p>【懇談】 ◇今年の修学旅行はどうだったか？ →安心・安全を心がけた。ホテルの下見もして、携帯・スマホ類も禁止とした。 ◇2年のあるクラスが落ち着きがないように見えたが、普段はどうか？ →2学期、改善しつつはある。行事はよくやれるので、学習にも向かわせたい。不登校気味だったり、学習に困難を感じていても個別支援を拒否していたり、数学の基礎ができていなかったりする子もいる。 ◇保健室の800人の相談者の内訳は？ →頭が痛い、気持ちが悪いなどの体調不良が多い。その1/3は、家庭や友人関係やプレッシャー等が原因である。 ◇カウンセラーに相談してくる保護者の子どもの様子はどうか？ →不登校気味だったり、家庭に課題があって不安定だったりする。育て方の相談に来る保護者もいる。 ○SNSのやりすぎは、小学校から教育しないと難しい。携帯を持たせるときにルールを決めないと、途中からは変えられない。学校できまりを作ってくれば、家庭は助かると思う。</p>	

訪問学校・園名	大磯町立国府小・中学校生沢分校	
日 時	平成27年10月15日(木) 13:30～15:45	
日 程	開会	13:30
	授業参観	13:35～14:20
	職員との懇談	14:45～15:45
	閉会	15:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、全教職員	
懇談会の主な内容	<p>【学園・分校の概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所のルートは2通り。児相で話し合いがあり、本人も納得して来る生徒。それに対し、家庭裁判所で措置されてきた生徒は、なかなか現状を納得していないケースもある。 ・スローガンは、「Chance・Challenge・Change (チャンス・チャレンジ・チェンジ)」自分で課題を克服し分校を築立てよう、願いを込めている。 <p>【全体懇談】</p> <p>◇ノートにきちんと色も使って書いている子がいた。どのような指導をしているのか？ →社会科では、本人の意見を尊重し、プリントによる学習か、ノートに板書する形か聞く。 →小学校では、色や板書を工夫したり、すべての授業で見通しを提示したりするようにしている。</p> <p>◇明るい教室で、生徒たちにも話しかけられた。先生がたのご苦勞の中で、癒されるのは？ →「ありがとう」と感謝の言葉を言われること。 →行事に來た卒業生から感謝の言葉があった時。</p> <p>◇刺激に弱い生徒もいると思う。どのような工夫があるか？ →見通しがないと集中できないので、最初に何をやるのか説明している。 →教室内のものを整理したり、カーテンをつけて刺激にならないようにしたりしている。</p> <p>○学校がとてもしっかり環境の中にある。生徒たちの背景はいろいろだが、今日の授業参観でも、先生がたはよく準備しており、コミュニケーションもよく取っていた。また、子ども達に自信がつくような声かけをしているので、学校に戻った時に良いと思う。</p> <p>○予定の変更により弱いと思われるので体育祭が雨だったのは残念だったが、体育館でできたのは良かった。先生は兄・姉・友・父・母、いろいろな役割をしている。</p> <p>◇1年間でこんなに変化するのかと驚いた生徒の事例があった。どんな取り組みがあるか。 →学校でももちろん対応するが、学園・児相・医療との連携の成果と考える。</p> <p>(その他、本日の5校時に授業がなかった教科の先生より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育→自分の身体を自分で操れるように指導をしている。 ・数学→授業中にヒントをよく出すようにしている。週に一回程度、学園に行くと1時間ぐらいマンツーマンで指導をするようにしたら、授業を聞くようになった。 ・技術→のこぎり・かなづち・キリを持つと、無意識だが机を叩いたり差したりしてしまう。直線に切るのも苦手。やすりで刀を作ったりするが預かると忘れてしまうこともある。 ・音楽→歌やリコーダーに取り組むことは難しい。音楽に興味をもって楽しむことが目標。リズム遊びをしたり、ドラム・ギター・ピアノ等で、クラスごとに合奏に取り組んだりしている。 ・生徒指導担当→今年度から「スキルアップチャレンジ」を始めた。褒められたことがない生徒たちなので、少しの差も見逃さず、どんどん褒めて、表彰するようにした。 ・養護教諭→普段は授業の支援に入っている。怪我があれば呼ばれるが、ささいな怪我でもきちんとカットバンを貼ったりして、とにかく丁寧に対応するようにしている。 	

訪問学校・園名	国府小学校	
日 時	平成27年11月19日(木) 12:30 ~ 16:30	
日 程	給食試食	12:30~13:00
	開会・懇談①	13:10~13:40
	授業参観	13:45~14:30
	懇談②(グループ別)	15:00~16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、全教職員	
懇談会の主な内容	<p>「学校要覧」より、今年度の新たな取り組み・重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制(いろいろな先生と子どもがつながるように考えている) ・インクルーシブ教育 ・単年度学級編制(出会いのチャンスやリセットする機会を与える) ・防災(いろいろなパターンで実施している) <p>【概要説明】</p> <p>学校研究について(研究主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝える、「話す」「聞く」を重視(聞き方「あいうえお」、話し方「おおいそまち」をクラスに掲示) ・グループ핑の工夫(生活班だけでなく、ペアや3人) ・中学と連携して横浜プログラムを導入 ・かながわ学びづくりと大磯町の日常授業の改善(12月2日に公開授業・研究会) <p>教育相談コーディネータより(教務主任・コーディネータ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常級に在籍する児童で、支援が必要とされる人数は98名 ・いじめ基本方針を8月に見直した <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでの懇談会 <p><主な話題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府の児童はとても人懐こく、親しみやすい。保護者もあたたかい。 ・給食費未納の保護者対応については苦慮している。 ・オープンスペースのメリット(○)とデメリット(●)について <ul style="list-style-type: none"> ○学年として活動できる。先生も学年で集まってすぐに話ができる。 ○先生たちが、他の教室にも入れるので、担任以外とのつながりもできる。 ○管理職も含め、他の先生がサポートに入りやすい。 ●子どもも保護者も落ち着いた地域でないと、オープンスペースは難しい。 ●40人近いクラスだと、はみ出てしまい、刺激も多い。壁が欲しい。 ●集中力の継続が難しい。隣の音が聞こえたり、様子が見えてしまったりする。 ●掲示物を貼る場所が限られてしまう。収納スペースもない。 ●カーペットは、汚れたときの対応が難しい。フローリングにしてほしい。 ●学年に1つは壁のある教室が欲しい(特に南側の校舎にはないので)。 ・来年も支援員をつけて、手厚くしてほしい。 ・不審者対応に、インターホンをつけてほしい。 ・防犯カメラが増えてよかった。 ・児童の机に物が入りきらない。低学年にこそ、大きい机が欲しい。 ・勤務実態について <ul style="list-style-type: none"> 事務仕事より、子どものための教材研究がしたい。 校時の工夫で教材研究の時間を確保し、若い先生にも力をつけてほしい。 PC導入で要録等がリンクすると、作業の手間が省けると思う。 ・大磯スタンダードや、全体での指導法の柱を作ることを研究したほうがよい。 ・事務職員にも研修の機会があるとよい。 	

訪問学校・園名	国府幼稚園	
日 時	平成27年12月17日(木) 13:15 ~ 15:20	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20~14:00
	職員との懇談	14:20~15:20
	閉会	15:20
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	園長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>年少・年中・年長、全員で73名という、小規模な幼稚園である。地域や保護者がとてもあたたかく、協力的である。国府幼稚園では創立当時から運動会で「リンゴ取り」をやってきた経緯もあり、国府幼稚園卒園の保護者がマスコットキャラクター「コクリン」を作ってくれた。あと2年3か月で統廃合となるが、8月頃は保護者も落ち着かなかつたが、今は落ち着いている。毎日の園生活を大切に、国府幼稚園でよかったと思ってもらえるよう、職員一同が努力をしている。</p> <p>【幼稚園の保育実践について】</p> <p>①3学年の交流～各学年1クラス、合計3クラスしかないので、異年齢の交流を大切に、研究もしている。憧れの気持ちや優しい気持ちを育て、家庭的な雰囲気を大切にしていきたい。また、先生も他の学年の園児を把握できるし、園児も多く先生とかかわれる。</p> <p>1学期～迎える会・一緒に遊ぶ・一緒にお散歩(泣いている年少児も年長が手をつなぐと泣き止んだりする)</p> <p>2学期～発表会で、他の学年の出し物を真似して口ずさんだりしている</p> <p>3学期～年長児が年中・年少児に「幼稚園を頼んだよ!」という雰囲気です卒業していく</p> <p>②地域の方々との交流</p> <p>職員以外からの子どもの育ちの援助があり、職員も学ばせてもらっている。お礼はできないが、子ども達が元気に育つことがお礼と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操教室、リトミック、ラグビー、ママの会、ワークマン(餅つき)、PTAの保護者、老人会など ・サポーターさん(3名)が登下校の見守り、花壇での野菜づくり、散歩、手品 <p>【懇談】担任より各クラスの様子について説明</p> <p>年少たんぽぽ組:4月はまだおむつをしている子や、泣いている子がいたが、昨日の保育発表会では、泣いている子は一人もいなかった。成長を感じる。挨拶もよくできる。地域の方に育てていただいていると感じる。</p> <p>年中さくら組:お兄さん・お姉さんになり、泣く子もいない。年長児には憧れを持ち、年少児には優しくできる、貴重な一年である。友だちとも少しずつ関わられるようになり、ルールがある遊びもしているが、まだ自分の思いを伝えるのが上手でできなくて、手や足が出たり、トラブルはある。友達関係ができるよう、声をかけて援助していきたい。</p> <p>年長すみれ組:ドッチボールや、保育発表会までの取り組み、また運動会など、団結して取り組むことができた。5歳児なりの社会性が育ってほしい。また、好きな遊びにも重点を置いている。異年齢交流も自然にできている。個別の支援が必要な子もいるが、巡回相談にてアドバイスを受け、環境の整備をしたりしている。</p> <p>◇本はよく読んでいるか?</p> <p>→本は大好き。字がまだ読めなくても絵を見ている。週に一回は園の本を自宅に持ち帰っている。「月刊絵本」も取っていて、園の活動の中で読む時間もある。</p> <p>◇文字をどう扱っているのか?</p> <p>→書かせる活動はないが、「書きたい」という気持ちは大切にしている。月刊誌にも書くところはある。家庭によって差もある。</p>	

訪問学校・園名	大磯小学校	
日 時	平成28年1月15日(金) 12:20 ~ 16:50	
日 程	給食試食	12:20~13:00
	開会・挨拶・教育活動の概要説明 I	13:05~13:35
	授業参観1(モジュール)	13:35~13:50
	授業参観2(5校時)	13:55~14:40
	教育活動の概要説明 II	15:05~15:35
	職員との懇談	15:40~16:40
	閉会	16:40
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教職員	
懇談会の主な内容	<p>【概要】○平成27年度大磯小学校教育アンケート結果について ・結果の数字を見ても保護者と児童の感覚にズレがあると感じるので、これから一緒に考えていきたい。 ○「平成27年度全国学力・学習状況調査」についての報告 ・平均正答率は全国と比べても大きな差はなかった。・算数の図形の問題には課題が見られた。指導の在り方に見直しが必要と考える。・学習の「めあて」の意識づけに関しては、先生が取り組んでいる割には薄いと感じる。さらに重点的に取り組んでいきたい。・児童質問紙において、テレビやゲームに関しては、それほど好ましくない結果ではなかった。・学校以外での子ども達の読書に関しては課題がある。</p> <p>【懇談】・グラウンド工事が着々と進んでいる。2月末に完成の予定。また子ども達にのびのびと運動をしてほしい。・学校を地域が盛り立ててくれている。PTA活動がとても盛ん。本日も美化ボランティアがトイレのお掃除。花ボラが花壇の手入れ。校門では警親会が登下校の見守り。地域でも見守ってくれている。 (各学年・担当より)</p> <p>1年生～学校という環境に慣れるのが目標だった1学期から、友達のいいところを探すという活動を全クラスで2学期から始めた。お互いにいいところを見つけられると良い。 2年生～掛け算九九を練習中。初めてのクラス替えがある。道徳の授業に他のクラスの担任が入るなどして児童を理解し、よりよい3学年に向け、学級編製の準備をしている。 3年生～左義長の学習を通して、地元を学ぶ姿勢を育てたい。今、多くの児童は、左義長については団子焼きしか知らない現状がある。 4年生～1/2成人式に向けて準備中。どのクラスの子どもも、先生たちみんなで一緒に成長させて5年生につなげたい。 5年生～現在、人権について学んでいる。また、6年生をうまく送り出せるよう、卒業式等の行事を大切に考えていきたい。 6年生～行事に追われている。今日も卒業文集の原稿がやっと終わった。運動会の鼓笛・音楽会が終わり、今度は自由参観日の国際理解の発表会を予定している。6年生は学校の「顔」であり、胸をはって卒業できるように、学年職員としても、いい卒業式をプレゼントしたい。 特別支援～今年度から、「頑張りシート」を作り、保護者とも相談の上、具体的な個別目標を立ててシールをはっている。支援員さんがとてもきめ細かな支援をしてくれている。ぜひ継続して配置をお願いしたい。</p> <p>教育相談コーディネータ～指導協力員の個別的指導を受けているのは13名。教育支援員の配置は通常級に3名・支援級に5名。通常級は1～3年生に配置。各学級からの要請による。1年生は学級全体への学習・生活支援。スクールカウンセラーやスクールアドバイザーに、保護者の相談希望も多い。スクールソーシャルワーカーや、虐待ケースには児童相談所にも相談できる。不登校の児童には町の子育て支援センターや民生委員さんもかかわり、町に支えてもらっていると感じる。 事務～机や椅子の配置をお願いしたい。備品は高価なもの(例えばピアノ)でも、必要なので要望をしている。 養護教諭～複数配置で2名いるので、悩みの相談にも乗れる。インフルエンザは出始めたところ。こまめな手洗いやうがいや声かけをしている。学校保健委員会を「健康な心からだをつくらう！(メディアと上手に付き合う)」をテーマに開催した。</p> <p>○挨拶が笑顔でできていた。基本的な指導ができていたと感じた。 ○寒くても子ども達は元気いっぱいであった。モジュール外国語活動のエイゴリアンは、どの学年も画面に集中していた。先生も、児童が見やすいように机や椅子の位置を変えたり、細かい配慮をしていた。 ○人を多くして取り出しや個別的な支援をすることも大事かもしれないが、子ども達同士が協力しあって、その子が自分でできることを一生懸命やることも大切だと思う。</p>	

訪問学校・園名	たかとり幼稚園	
日 時	平成28年2月22日(月) 13:15～15:30	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:30
	閉会	15:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員、子育て支援課職員	
学校・園懇談会参加者	教頭、全教員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について】・年少36名・年中47名・年長37名の計120名。 ・「なかよしタイム」という異年齢の交流や、保育園・他の幼稚園・小学校との交流もある。 ・未就学の子どもの交流もあり、地域の中の幼稚園になっている。地域に住む母親にも、「いつでもどうぞ」という気持ちで相談にも乗るようにして、地域に利用してもらえる園にしたい。 ・友達と仲良く遊ぶ子・体を動かす子、という運動能力を意識した活動を取り入れ、特に今年は研究テーマを「身近な環境を生かし、身体をいっぱいを使って遊ぶ工夫」にして取り組んでいる。</p> <p>【研究推進委員より】・月に一度研究日を設けて、各学年から全体に広げて一年間かけて取り組んでいる。 ・特に「チェックリスト」(どこまでできるか？次は何ができるか)を作成し、学期の最後には話し合いの場をもち、成長を確認しあっている。</p> <p>【各学年より】(年少)・実際は2歳レベルの動きから始めた。・年少組は、差があっても他の人は気にしないで、自分が楽しんでいる。・6月より体育あそび(マット・跳び箱・はしご)に週1回取り組んでおり、レベルも上がっている。 (年中)・3歳児のレベルの動きから始めた(ケンケン・うさぎ跳び・四足歩き等)。・4歳児は、成長に大きく差がある。・「なかよしタイム(異年齢交流)」や、「チャレンジタイム(運動あそび)」で楽しく運動している。・運動会前にはかけっこ・平均台、長縄で始めた縄跳び、マラソンやドッジボールにも取り組む。 (年長)・苦手意識が強くなる。・好きな遊びの時間に運動をやらない子がいるし、負けたくないからと勝負遊びをしない子もいる。・ドッジボールやサッカー、鬼ごっこ等、ルールを守る遊びや、ぞうきがけリレー・音楽に合わせて動物になる等、楽しみながら足腰を鍛える遊びを取り入れている。・運動会の「よさこい」は、時間をかけて練習した。</p> <p>【懇談】○学年ごとの特徴をとらえて身体を動かす工夫がみられた。小学校に入学すると、勉強が中心となり、それには体力もいる。遊びを中心とした幼稚園の活動は大切である。いい研究をしていると思う。 ○先生の対応がとても落ち着いている。帰りの会ではキラキラした瞳で先生が絵本を読むのを見ていた。 →年長は、特に小学校への入学を意識して、人の話を聞く、前に人が立ったら必ず聞く、と指導している。 ◇園児たちにたくさん話しかけられた。この時代に、コミュニケーション能力は大切。コミュニケーションが上手に取れる工夫を何かしているのか。 →職員同士のコミュニケーションがいいのも一つだと思う。他のクラスのことも共有している。朝、ホワイトボードにその日の予定を書いたり、帰りの会の後に、保護者に対してその日の出来事を話したりしている。それも保護者とのコミュニケーションである。 ○幼稚園の対応の速さに感動した。園児たちも、勝手に遊ばせるのではなく、最初は一緒に遊んで教えている。帰りに本を読み聞かせるのも、いいクールダウンだと思う。 →紙芝居も先生のチョイスだったり、子どもに選ばせることもある。クイズをすることもある。 ○紙で作ったドレスを着て、喜んでいる女兒がいた。 →先生の手作り。男児では少し前、マントが流行っていた。 ◇AETの先生の授業は？ →今日は年少が初めての英語。嬉しそうにHello!と言っていた。学年の発達段階に応じた指導内容や、次への期待が持てるもの、視覚的な教材があるとよい。 ◇施設に関して困っていることは？ ・夜は園の裏側が真っ暗になる。 ・プールでお着替えするときには、ガラス張りの園舎だと心配もあり、カーテンが欲しい。 ・園児がにぎやかだと非常ベルが聞こえにくい。町の防災無線放送はよく聞こえる。 ・新しい園舎に慣れ、危険意識が薄れつつあるのが心配。 ○子どもはどこで何を起こすかわからない。十分に気をつけていきたい。</p>	

②行事等

行事名	月日(曜)	対象園・学校
運動会・体育祭	5月30日(土)	大磯中学校
	5月30日(土)	国府中学校
	9月19日(土)	大磯・たかとり幼稚園
	9月26日(土)	国府保育園・国府幼稚園
	9月25日(金)	国府小・中学校生沢分校
	10月10日(土)	大磯小学校・国府小学校
文化祭・保育発表会等	10月17日(土)	大磯中学校文化祭
	10月17日(土) ～18日(日)	国府中学校文化祭
	10月31日(土)	いそっこフェスティバル(幼・保ふれあい交流会)
	11月23日(日)	おおいそ学園(生沢分校)収穫祭
	12月5日(土)	国府保育園保育発表会
	12月15日(火)	大磯・たかとり幼稚園保育発表会
卒業証書授与式 ・修了証書授与式	3月12日(土)	国府中学校
	3月14日(月)	大磯中学校
	3月15日(火)	国府小・中学校生沢分校
	3月16日(水)	大磯幼稚園・たかとり幼稚園
	3月17日(木)	国府幼稚園
	3月18日(金)	大磯小学校・国府小学校
	3月19日(土)	国府保育園
生涯学習	5月23日(土) ～6月21日	「大磯の災害」パネル展
	7月18日(土) ～9月23日(水・)	企画展「海の中の植物・海藻～いろいろな色 いろいろな形～」
	10月24日(土) ～25日(日)	おおいそ文化祭
	10月24日(土) ～12月13日(水・)	企画展「用田村伊東宗兵衛家文書の世界ー古文書が結ぶ二つの地域ー」
	11月15日(日)	大磯図書館まつり
	1月11日(月・祝)	成人式・新成人記念のつどい
	3月2日(水) ～3月21日(月・)	「大磯の災害」パネル展
	3月21日(月・祝)	大磯Challenge Live
その他行事等	11月7日(土) ～8日(日)	子ども作品展
	11月14日(土)	小・中学校音楽会
	1月23日(土)	中学生英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	

(5)その他の活動

①神奈川県市町村教育委員会連合会総会・意見交換会

日時	平成27年4月15日(水)
場所	浄智寺(鎌倉市)
参加体制	教育長
内容	10:45～11:15 【総会】 1)平成26年度事業報告及び収支決算 2)役員改選 3)平成27年度事業計画(案)及び収支予算(案) 4)その他 11:30～12:30 【意見交換会】 ・新教育委員会制度 など

②関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会

日時	平成27年5月29日(金)
場所	長岡市立劇場 大ホール
参加体制	教育委員2名、事務局随員
内容	13:00～13:25 開会式 13:30～14:00 【総会】 1)平成26年度事業報告・会計決算 2)平成27年度事業計画(案)・会計予算(案) 3)会長、副会長及び監事の選出・理事の選任 14:15～16:05 【研修会】 1)講話 ・「新教育委員会制度における教育委員の役割」 ・講師:文部科学省初等中等教育局 企画官 堀野 晶三 氏 2)記念講演 ・演題:「儒学者 小林虎三郎がめざした教育理念」 ・講師:河井継之助記念館 館長 稲川 明雄 氏 16:10～16:20 閉会式

③神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

日時	平成27年10月30日(金)
場所	鎌倉生涯学習センター ホール
参加体制	教育長、教育委員4名、事務局随員
内容	14:00～14:10 開会・挨拶 14:10～15:40 【講演会】 演題「心療内科医から見た子どもたちの現状」 (心療内科医 江花 昭一 氏) 15:40～15:50 質疑応答 15:50～16:00 事務連絡・閉会

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①教育委員会議が、法令等に沿って、その開催にあたり会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開するなど、適切に実施されたか	A	法令に則り、年度初めに計画された定例会は公開により開催され、臨時会も必要に応じて適宜開催された。会議の予定は町広報誌やホームページを通じて周知に努め、議事録も公開した。	会議の予定や議事内容の公開に努め、関係者のみならず、地域住民とも問題点の共有と解決に、今後ともより一層努力していかなければならない。ホームページ上での議事録公開をできるだけ早めたい。
②教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	A	いじめ問題対策、中学校給食、町立幼稚園の認定こども園への移行等様々な事案を個々が事前に検討した上で会議に臨み、付議案は慎重な審議がされている。特に複雑な案件については事前の勉強会で理解を深め、意思決定までの時間を十分に設けた。協議事項に対しても方向性を示し、ともに適正な意思決定がなされている。	会議の開催にあたって、事前の会議資料の送付を継続し、内容を十分に把握するとともに、確実に理解した上で適正な意思決定に努めたい。委員の間で見解が異なる事柄があった場合も、可能な限り全員が納得するまで協議をしていく必要がある。
③教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	A	年度当初より新教育委員会制度に改め、教育行政の責任の所在を明確にし、教育施策に必要な予算要求及び幼稚園の統廃合、いじめ問題対策や中学校給食、郷土資料館リニューアルなど、幼児教育・学校教育・生涯学習の課題に対応する一方で、点検評価や基本方針を審議し、今日的課題を踏まえて町の教育の方向性を示している。	教育的課題の現状を把握し適正に対応するために、情報の収集と委員の資質向上に努めたい。 いじめ・体罰の防止と早期発見、児童生徒の体力向上等は、学校と家庭が連携し、成長期における子どもたちへの十分な体制づくりが急務である。 事務連絡として扱われる内容のうち、教育委員会議で報告できるものを検討する。
④教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	A	会議は、自由に傍聴できることから、議案によって関係者や地域住民が訪れている。	傍聴者が少ない状況であるが、従来どおり、議案は会議開催前に周知し、また議事録も公開されているため、会場を町内に分散するなど、これまでの創意工夫を継続していくことは大切である。
⑤総合教育会議において調整が行われた事項について、尊重して教育行政を行っているか	A	総合教育会議が設置された初年度にあたり、町長と教育委員の協議により、教育大綱が策定された。知力、体力、共感力を養うことを願い、予算を検討した。教育大綱の周知に努め、学校の教育計画にも反映されている。	総合教育会議で策定された教育大綱をどのように具現化していくのが課題となってくる。学校、家庭、地域における信頼の構築を目指す教育行政を考えていく必要がある。教育大綱を尊重しつつ、課題解消に向けた施策を推進するとともに、推進状況の発信にも努めたい。
総合評価	A	教育委員会議での付議・協議・報告は適切に行われた。多様化・複雑化する教育行政の課題に対応するために、適時適切な情報提供や事前の勉強会を開催する等、教育委員会議の審議の活性化につながっている。教育行政の今日的な課題はもとより、地域住民や学校からの意見や要望に目を向け、疑問・質問に丁寧に回答できる機関として、より開かれた会議を目指していきたい。 町民のニーズの反映のため、社会教育委員会議の活用を検討したい。	

(2)事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 教育委員会議を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①必要に応じて、適宜、開催されたか	A	<p>中学校給食実施、生徒指導上の諸課題を始めとして、教育委員会が関わる様々な案件について、事前の情報提供や結果報告が行われ、確認や調整の場として、また緊急の問題を議論する場として、有効に開催された。</p> <p>扱われる内容が多く、十分に消化しきれていない感がある。</p>	<p>情報の共有が実現しているが、臨時の機会を設けるなど、事前協議の場としての役割の充実に努めたい。</p> <p>課題解決に向けて、議論する場として、これからも回数や項目に拘らず柔軟な開催を考えていきたい。</p>
②勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	A	<p>総合教育会議や教育委員会の点検評価、基本方針の策定等、十分な準備を要する案件では、時間をかけて協議をし、教育委員会議の確認や調整の機会となった。</p> <p>また、いじめ問題対策、中学校給食、町立幼稚園の認定こども園への移行等、多岐にわたる項目についてタイムリーな情報提供や報告を受けることができた。</p>	<p>日程調整が難しくとも、できるだけ多くの関係者を招集し、意見交換する会にしたい。</p> <p>多くの場合、教育行政の成果はすぐに現れるものではないが、将来を見据えた教育を念頭に置き、様々な課題を得るよう努めたい。</p> <p>組立体操の問題等、情報の少なさを感じた部分もあるため、委員として情報収集に努めるとともに、事務局にも具体的に必要な情報の提供を求めていく。</p>
③次回の議案、テーマに関して一定の理解がなされたか	A	<p>複雑な案件は、勉強会を通して議案やテーマへの理解を深めると同時に、事件事故については、発生時の状況やその後の経過報告も丁寧に行われるなど、各項目の理解がなされている。</p> <p>会議で扱われた内容については協議がしやすかった。</p>	<p>情報や報告を理解することで町の教育の様々な分野の動きを把握し、教育委員会議の活発な審議につなげたい。</p> <p>複雑な案件は勉強会を設けるなど、教育委員会議の適正な意思決定へつながる会議としたい。</p>
総合評価	A	<p>多様化・複雑化する教育行政の課題に対応するために、適時適切な情報提供や事前の勉強会を開催する等、教育委員会議の審議の活性化に繋がっている。</p> <p>複雑な案件は共通理解を得るために何度も議論された。特に学校現場の案件は、情報提供と報告が丁寧に行われ、解決に向けて議論している。教育委員会議を円滑に効果的に運営するため、情報の共有などの役割は十分に果たしているが、未解決の課題もある。解決に向けた努力を続けるため、関係者を招集した話し合いの機会を増やすべきである。また、話し合われた内容は、可能な限り公開することに努めたい。</p>	

(3)意見交換会・懇談会

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①懇談会等を通して保護者や地域住民と課題を共有することができたか	B	<p>小中学校では、児童生徒を取り巻く課題をテーマにして、保護者や地域の方々、或いは生徒や教職員も加わり、それぞれの考えを双方向で共有できた。また、社会教育関係でも町の生涯学習の将来を見据えた議論がなされている。</p> <p>防災・防犯は今日的課題として多くの問題を抱えているが、十分な議論はなされていない。大磯町の地形に合った対策が十分ではないからだ。スマホやインターネットトラブルは大きな課題となっているが、話し合いそのものは有意義であった。参加できない日時の開催であった。</p>	<p>地域住民や保護者が日頃から疑問に思っている事柄は多い。テーマを定めず、質疑できる機会が設定できるとよい。</p> <p>過去に実施されていた「町立学校PTA連絡協議会役員」との懇談会が実施の機会を逃している。他の懇談会にPTA役員も出席して意見交換は実現しているが、開催に努めたい。</p> <p>防災・防犯のテーマは町としての考え方を再考する必要がある。児童・生徒の身近な問題は、スマホを始めとして社会的テーマとは言え、町独自の考え方を打ち出す時期でもあるだろう。</p>
②懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	<p>地域・家庭・学校が連携して児童生徒の健全な成長を支えていくという共通認識の中で得られたご意見や情報は、学校の災害時の対応や、コミュニケーション力の向上に繋がる言語活動の充実の推進に繋がっている。</p> <p>得られた情報や意見をもとに、行政として直接対応できてはいないが、学校や地域への協力を促す努力は行っている。</p> <p>保護者や地域住民の思いが伝わってくる意見交換ができたが、実行となると難しいものもあり、結果として生かされていない情報や意見も多い。</p>	<p>東北に続く熊本での震災を受け、防災対策を早急に強化したい。</p> <p>社会教育委員との懇談ではそれぞれの委員会の立場について意見が出されたが、正しい理解に基づいた意見交換が必要である。</p> <p>長期・短期で取り組む課題を明らかにしていきたい。</p>
総合評価	B	<p>地域住民や保護者との交流の場を設け、要望や意見をうかがってはいるが、行政に活かすまでに至っていない。</p> <p>「次世代を担う人づくり」として教育行政は大きな責任を課せられているが、児童生徒を中心とした学校・家庭・地域の連携は教育行政の大きな支えとなっている。懇談会では「地域や家庭における子ども達の姿」を探り、三者が課題を共有できるよう更なる活性化に努めたい。</p> <p>意見交換会や懇談会は、問題を共有すると同時に、相互の信頼を深める場となっており、意見を教育行政に反映する貴重な場であることから、今後の活動についても積極的に対応することが必要となってくる。</p> <p>保護者との関わりを持つ町立学校PTA役員と懇談する機会の設定に努めたい。</p>	

(4)訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	A	<p>授業参観や懇談会での意見交換によって、多くの課題を共有することができた。また、教職員の児童生徒に対する思いや苦勞、現状より上を目指して改革を進める姿勢を理解できた。</p> <p>学習や生活指導参観により各学年の様子を把握した後には教職員と懇談することで、様々な取り組みや、それに伴う課題、その課題解消に向けた要望を共有できている。</p>	<p>各訪問は、年に1回程で少ないが教育委員が園や学校の行事に積極的に参加し、教職員との意思疎通を図ると共に課題の把握に努めたい。</p> <p>前年度の訪問時に出た課題に対しての方向性を示せたら良いと思う。直に対応できるものには必要な情報を渡せるようにできたら良い。</p> <p>懇談の時間が十分でないことがあり、時間の有効活用に努力していきたい。</p>
②学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	A	<p>先生方の教育活動や保育実践をよりよく理解し、視察で得た情報は教育委員会の意思決定の大きな要素となっている。</p> <p>学校や園の取り組みを理解し、教育支援員や学校図書館司書配置などの対応を行った。中学校体育館は改修されるが、大規模改修など予算措置を要する案件は、実現に時間がかかる状況が続いている。</p> <p>学校や園に委ねることは多いし、必要であることは理解できるが、戸惑うことのないよう、しっかりと指針なり方向性を示すよう改善が必要に感じる。</p>	<p>課題解消に向けて教育委員会議で話し合い、方向性を示すと共に、総合教育会議を活用し町部局とも情報共有を図り、町の教育環境の向上に努めたい。</p> <p>様々な課題があるが、今後も学校や園の意見を受け止めた対応を心掛けていきたい。</p>
総合評価	A	<p>幼保、学校への訪問や職員との交流は、多くを学べる有意義な機会となっている。体育館やグラウンドなど設備改善については対応してきている。今後、災害や特別支援（インクルーシブ教育など）への対応を強化していきたい。</p> <p>限られた訪問の機会を有効活用できるように、工夫して訪問を実施し、課題の把握と共有はある程度の成果を上げている。発達段階による問題の違いはあるが、訪問によって得られた課題を教育行政に反映させるよう努めたい。</p> <p>研究、実践していること、工夫や反省も見られて訪問の意義を強く感じる。しかし、せっかく出てきた要望や問題（備品・施設に関して・安全のための環境整備・病児保育の必要性など）には対処できないことへの理解を求めざるばかりであることを残念に感じる。</p> <p>教職員の意見をできるだけ吸収しやすいよう、配慮をしていきたい。</p>	

(5) 訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
<p>【目的】 学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。</p> <p>①教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか</p>	A	<p>委員は行事に積極的に参加し、行事の趣旨に沿って児童生徒への声掛けや応援をし、保護者や地域の方々との交流を図っている。</p> <p>保育発表会や運動会、文化祭への参加は、園児・児童・生徒とその保護者の様子を知る良い機会となった。また保護者や地域住民と忌憚のない会話ができる場ともなった。</p> <p>地域住民との意見交換はなかったが、子どもや先生方に話しかけて教わることは多かった。</p>	<p>子ども達の「がんばる姿」を共有する中で、保護者や地域の方々と積極的に交流を深める機会としたい。</p>
<p>②各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか</p>	A	<p>学校や園の行事への取り組みや教職員の生徒指導、保護者や地域の方々のご協力の成果を肌で感じることにより、感謝すると同時に理解を深めることができた。それぞれの役割を責任をもって取り組む姿勢を確認できた。</p>	<p>学校訪問と異なる角度から得られた情報や意見を、教育委員の間でも共有していきたい。</p> <p>積極的に参加し、雰囲気を感じるように努めたい。</p> <p>このような活動の動きが、総合的な力として、「大磯町」の新しい動きとなることを模索したい。</p>
総合評価	A	<p>行事等に積極的に訪れ、運動会では保護者と共に種目に参加したり、子ども達の姿を話題にして地域の方々との交流に努める中で、園・学校の取り組みやそれを支えるご協力について、理解を深めることができています。また、文化祭や成人式など生涯学習関係の行事は、委員が大磯町を様々な角度から再認識する機会となっている。</p> <p>行事は、園児・児童・生徒の日ごろの努力の成果を見ることができるよう、保護者や地域住民とテーマのない対話ができる良い機会ともなっている。控室や来賓席をオープンにすれば、さらに多くの交流が期待できる。</p> <p>各行事に地域の見学、参加が多く、学校・幼稚園・保育所等、地域に大切にされていることを嬉しく思う。今後もより良い関係を維持していきたい。</p> <p>大磯という特性を生かし、園や学校行事を家族や地域の幅広い年齢層を始め、多くの住民の参加を得て、町一体となった様子からも、全国にも負けない「町作り」を成している。この町は、教育も新しい「町作り」の一翼を担っていると言える。</p>	

4 学識経験者による評価（外部評価）

【外部評価者】（敬称略、項目ごとの記述記載順：欄中○印）

氏 名	所 属 等	備 考
竹 内 清	元教育委員	
武 沢 護	早稲田大学大学院教職研究科客員教授	

【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ① 内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか**（内部評価の妥当性）**
- ② 内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針**（指導・助言）**

なお、各項目の記述については、外部評価者ごとに（○印）、順に記載しました。

(1)教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議が法令に則り、適切に開催され、真摯な議論がなされたことに敬意を表する。また、臨時会も必要に応じ開催されるなど柔軟に対応できていることは評価できる。</p> <p>①については、予定を広報誌などで周知し、議事録を公開するなど適切に実施されているので、評価Aは妥当である。</p> <p>②③については、新たな制度のもと総合教育会議、中学校給食や幼稚園のこども園への移行、郷土資料館リニューアル等大きな案件が山積する中、事前の資料配布や学習など十分時間をとって慎重に協議するなど、意思決定機関として適切な機能を果たしたと考えるので、評価Aは妥当である。</p> <p>④については、住民にとって身近なものかどうかは、住民の意識を推測することになり、それを評価することはかなり難しいと思われる。住民意識の高まりが傍聴者数の増加に結びつく場合もあるが、議題・案件の内容とも関わることもあろう。評価の根拠にあるように、自由に傍聴できる会議であるという観点からは、評価Aは妥当である。</p> <p>⑤については、総合教育会議で大磯町の教育大綱が町長と教育委員とで協議の上策定された。他</p>	<p>○今年度は、総合教育会議が開催されるなど、大きな変革があったため、その対応等で苦慮されたことと思われる。教育委員会と理事者側との連携を密にするとともに、教育委員の意見が十分反映されることによって、大磯町の教育がさらに充実・向上するよう尽力してほしい。そのためにも、事務局は積極的に情報提供を行い、一層教育委員との情報の共有化を図ることが求められる。</p> <p>教育の諸課題は多様化するとともにより複雑・多岐にわたるため、迅速かつ適切に対応することが肝要である。</p> <p>項目④については、項目①に周知や公開といった文言があり、そこにも「地域住民にとって身近なものになっているか」判断する手立てがあると考えるので、項目④の必要性について検討したい。</p> <p>昨年度、地域住民にとってより開かれた会議とするため会場を支所にも広げたらどうか、という提案に対して、早速、今年度実施したことは評価できる。今後、住民や保護者に対し、こころ通う会議のあり方について継続して検討してほしい。</p>

市町村に先がけての策定であり、その先取の気概や努力は多くが認めるところであるため、評価Aは妥当である。

総合評価については、事前の情報提供や学習会が適切に行われたからこそ教育委員会議での付議・協議等が適切に行われたものと思慮される。社会教育委員会議の活用へひろげていこうとする姿勢は評価したい。したがって、評価Aは妥当である。

○教育委員会議が法令に則り、定例会（12回）および臨時会（3回）が適切に運営されていることは教育行政にとっては重要なことである。

項目①について、会議の開催、議事録の公開など広報誌やホームページで適切に行われており、評価「A」は妥当である。

項目②について、事務連絡調整会議とうまく調整を取りながら、いじめ問題、中学校給食問題など今日的または喫緊の案件に関しても丁寧な段階を踏んで議論されており評価「A」は妥当である。

項目③における「今日的な課題」は教育委員会にとって非常に重要なものであり、学校関係者だけでなく地域住民にとっても大きな関心事である。今年度は、教育予算、幼稚園の統廃合、いじめ問題など重要課題に適切に対応しており、この項目の評価が「A」であることは妥当である。

項目④では、教育委員会議が地域住民にとっていかに身近なものにするかが重要である。会議の傍聴者数が少ないが、開催に関する努力は認められるため評価「A」は妥当である。

項目⑤の「総合教育会議」の運営であるが、初年度でもあり「教育大綱」の策定など教育行政への取り組みとして、評価「A」は妥当である。次年度以降の取り組みに期待したい。

最後に総合評価に関しては、今日の多様化・複雑化する教育課題に対して、教育委員会の役割はますます重要になっている。このような状況のなかで、教育委員会議、教育行政の運営、地域住民への対応などの取り組む姿勢ならびにその実行

○左欄の「総合評価」でも述べたように、今日の多様化・複雑化する教育課題に対して、教育委員会議、教育行政の運営、地域住民への対応などの取り組む姿勢ならびにその実行は適切であり、その成果も認められる。

項目①や項目④に関連するが、教育委員会が地域に開かれたものになるために、より一層の努力が必要となるであろう。そのために、開催日時等の工夫を始め、従来からの取り組みだけでなく、地域住民の意見が吸い上げやすいような新たな仕組みの工夫が必要と考える。

また、項目⑤に関しては、「総合教育会議」の趣旨を踏まえ、次年度以降の適切かつ有効な運営が期待される。

は適切あり、その成果も認められるため、評価「A」は妥当である。	
---------------------------------	--

(2) 事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議を円滑に運営するために、事務連絡調整会議が重要な役割を果たしていることは理解できる。</p> <p>①は、年間の開催回数が13回で、教育委員会議は臨時会も含め15回である。評価根拠の中に、「扱われる内容が多く、消化しきれてない」との指摘があり、委員の仕事量との関連で今後工夫が求められる。</p> <p>しかし、会議は有効に機能し、教育委員会議の円滑な実施が行われたことで、評価Aは妥当といえる。</p> <p>②は、形式にとらわれるのではなく、適宜必要な情報提供を受けるとともに重要案件や基本方針などについては、十分時間をかけ相互理解を深めたことが伺える。したがって評価Aは妥当である。</p> <p>③突発的な案件、事件・事故は迅速かつ正確に報告する必要がある。その点、経過報告も丁寧に行われるなど相互理解のためには適切であった。したがって評価Aは妥当である。</p> <p>「総合評価」についてであるが、この事務連絡調整会議は教育委員としての仕事を円滑かつ充実させる上で最も重要な役割を果たしているといっても過言ではない。また、そういう認識で会議に臨んでいる様子がコメントの内容からも伺える。そのうえ、解決に向けた取り組みが意欲的であるなど評価Aは妥当である。</p> <p>○事務連絡調整会議は、教育委員会議の円滑な運営のための役割を担っており、報告書によるとそのことが十分に機能していることが確認できる。</p> <p>項目①に関しては、教育上の問題とりわけ緊急を要する生徒指導上の問題などを処理することが想定され13回の開催は時宜にかなったものであり評価「A」は妥当なものである。</p>	<p>○多くの重要案件を抱えた本年度の事務連絡調整会議はきわめて重要な役割を果たしたと考える。学校訪問を控えたあわただしい中、時間的にも限られ、余裕を持って内容の理解を図ることは困難なこともあったと思われる。ただ単に会議の回数や時間を増やせば解決すると捉えるのではなく、提示の仕方など会議のあり方に一層の工夫が考えられないだろうか。</p> <p>教育委員としての意見は、教育現場とは異なった立場から当事者では気付きにくい視点を持っていることであるので、そうしたことを率直に出し合って課題を多面的にとらえることがこの会議の役割の一つでもある。</p> <p>また、未解決の課題について当事者意識をもって努力をされていることに敬意を表したい。</p> <p>○教育委員会の円滑な運営のためには不可欠となっている事務連絡調整会議が有効に機能していることが確認できる。さらに教育委員ならびに事務局との連絡調整を密にして更なる機能が働くことを期待するものである。</p> <p>ただ、項目①の評価根拠にあるように「扱われている内容が多く、十分に消化しきれていない感がある」については、限られた時間のなかで、山積する課題を解決しなくてはならず、非常に難しい問題である。可能な範囲で事務局により諸課題の精査を考えていただきたい。</p>

<p>項目②については、今年度からの「総合教育会議」、「点検評価」などに加え、いじめの問題や中学校給食制度などへの対応について十分な議論がなされた点などから評価「A」は妥当と考える。</p> <p>項目③については、教育委員会議が円滑に運営されることを目的に、教育委員ならびに事務局との円滑な連絡調整が実施されており、評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価について、平成 27 年度の教育行政に関わるさまざまな課題に取り組むなか、教育委員会議の円滑な運営を目的に、情報共有および共通理解を促進する役割が果たしていると判断できる。評価「A」は十分妥当である。</p>	
---	--

(3)意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○地域や保護者と直接対話することにより、課題を共有し行政に反映することは大切なことである。</p> <p>①については、実施した小中学校では、子どもたちを取り巻く課題について、その共有化がなされたということだが、命に関わる防災・防犯については内容が深まっていかなかったということであり残念である。その要因としては、行政や地域としての問題もあるのではないか。実施にむけての解決すべき課題があるということなので評価Bは妥当である。</p> <p>②は、懇談会等で得られた情報や意見を行政に反映させるのは、緊急を要するものと継続的に対応するものとに分けて考える必要がある。伝えただけからといってすぐに結果や成果がでるものでもない。しかし、地道にその思いを関係者に伝えていくことは必要なことである。したがって評価Bは妥当である。</p> <p>「総合評価」については、学校・家庭・地域の連携の必要性について十分認識しているようだが、3者が会の重要性について理解を深め、開催されるから出席するという受身の態勢ではなく、相互理解の絶好の場であると積極的にとらえることが大切である。したがって、評価Bは妥当と</p>	<p>○保護者と直接対話ができるPTA主催の懇談会は貴重な機会である。こうした機会を生かし、率直な意見を聞くことを通して相互理解を図るとともに、その中から施策に反映できるものがあれば、財政の課題もあるが、実行に移すことによって保護者との信頼関係もさらに醸成されていくのではないか。したがって、今後ともこうした機会を大切にしてほしい。</p> <p>○意見交換会や懇談会は、各学校の現状や地域が抱えているさまざまな課題を共有する機会として非常に重要なものである。</p> <p>今年度の報告にもあるように、熊本での震災を教訓とした大磯町での防災教育の充実、また最近の児童生徒の生活指導上の問題の一つとなっている「ネット・ケータイ・スマホ」等のインターネットに関わる問題は、学校だけの問題として捉えるだけでなく、地域および家庭との連絡を密にすることが不可欠である。是非、教育委員会が先頭に立ってこの問題の解決の糸口を提示して頂きたい。</p> <p>こうした取り組みをもとに、大磯町が他の自治体に先駆けて教育行政の新しい方向性を提示できるよう期待している。</p>

<p>いえる。</p> <p>○教育委員会制度の大きな柱の一つである「地域住民の意向の反映」が必要な理由は、教育が児童生徒の保護者だけでなく、地域住民の関心の高い分野であるからである。このことを考慮すると、地域住民が気軽に参加できる意見交換会や懇談会の実施は非常に重要である。</p> <p>項目①について、評価「B」となっている。地域との直接対話などから教育行政にその内容を反映させることは確かに難しいかもしれない。しかし、今年度実施された「社会教育委員との意見交換会（H28.2.8）」や国府小学校・中学校および大磯中学校での地域住民・保護者向けの懇談会の実施内容など、非常に意義ある意見交換がなされたことは評価に値する。</p> <p>項目②については、項目①にも関係することであるが、政策を実行するに当たっては大磯町全体の施策や財政的な側面を考慮すると、このことは教育委員会だけで意思決定できるものではなく、自己評価として「B」でも致し方ない。しかし、各回の実施報告を見る限り事務局としての努力は十分に認められる内容である。</p> <p>総合的にみると、このような地域との意見交換や懇談会の実施は重要であり、さまざまな多様化・複雑化する教育の課題解決には不可欠である。しかし、一方で限られた時間のなか、懇談会等を企画し開催するにはやや限界があるのも事実である。平成 27 年度の事業としては評価「B」は致し方ない。</p>	
--	--

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○学校・幼稚園・保育園への訪問は、学校・園の教育方針や実態、子どもたちの学習や活動の様子、教職員の考えなどを知る上で最も効果的な活動である。</p> <p>①は、授業参観で子どもたちの様子を確認したあと教職員と懇談を行い、指導方針や課題を共有化し解決に向けた方策をお互いに探るなど、訪問</p>	<p>○教育現場の訪問は、実態を把握する上で最も重要な活動である。教育委員会として意思決定する際の適切な判断材料とするためにも、この活動は大切にしたい。</p> <p>施設設備面での要望等は町の財政状況もあるので、なかなか現場の意に沿わないことにもなりかねないが、継続的に担当部署に要求して</p>

<p>の内容は充実していることが伺えるため、評価Aは妥当である。</p> <p>②は、学校・園の実態や要望を受け、具体的に人員の配置等行政施策に反映させたことなど、訪問が有効に機能していると理解したため、評価Aは妥当である。</p> <p>「総合評価」については、訪問の意義をよく認識し、今後の課題への対応などもふくめ教育行政に反映させているため、評価Aは妥当である。</p> <p>○教育委員にとって、学校・園への訪問は現実的に起こっているさまざまな問題を認識できる最良の機会であろう。幼稚園・保育園、小学校そして中学校と児童生徒の発達段階による問題や課題の違いはあるが、やはり現場に行きこそ理解が深まるものである。</p> <p>項目①については、報告書にあるとおり、町内の幼保、小学校、中学校への訪問からその発達段階によるさまざまな課題を学校現場と共有できていることがうかがえる。それぞれ固有の問題、共通な問題と多岐に渡っているが有意義な訪問であったことから評価「A」は妥当である。</p> <p>項目②については、教育行政への反映はなかなか難しい面もあるが、各園、各学校からの意見聴取をもとに、今年度は「教育支援員の配置」「学校図書館司書配置」など実績を積み、評価「A」は妥当ではある。</p> <p>しかし、今後とも細かい要望も含め、可能な限り、教育行政への反映に心がけていただきたい。財政上の問題もあり容易に実現できるものではないが、常に改善努力をお願いしたい。</p> <p>総合評価に関しては、各教育委員による精力的な学校訪問が実施されていることがわかる報告内容である。学校現場から吸い上げられた課題が直ちに解決に至ることはなかなか難しいと思うが、地道な取り組みが行われており、評価「A」に相応しい。</p>	<p>いくことと、その後の進捗状況を学校・園に知らせることで教育委員会としての姿勢を示すことができる。</p> <p>今後は、策定された教育大綱の具現化に向けた取り組みを教職員に促していく必要がある。</p> <p>○教育委員による学校訪問は、学校現場そして教育委員双方にとって極めて重要なものである。教育委員会が正しい意思決定するためにも各学校の現状をきめ細かく聴き取ることは教育委員自ら学校現場の問題点を認識する上で不可欠である。今後とも積極的に取り組んで頂きたい。</p> <p>各学校・園への訪問報告は非常に興味深いものである。国府小学校での話題の一つに「インクルーシブ教育」が挙げられている。これはユニバーサルデザイン教育に関係して、すべての学校において重要な取り組みになる。大磯小学校での研究をも踏まえて町全体で取り組むことが望まれる。</p> <p>同じく国府小学校のオープンスペースの記述についても大磯小学校とともに常に問題点を共有する必要があると感じた。</p> <p>さらに昨年も記述したが、教職員の多忙感の問題である。とりわけ中学校における部活指導における問題（休日勤務等）、教職員の勤務状態についても引き続き問題意識を持ち続けていただきたい。</p>
--	---

(5) 訪問(行事等)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○①については、委員は各学校・園の行事に手分けして訪問し、委員が誰も行かないことのないよう配慮している。また、委員が子どもや保護者への声かけを行うなど積極的に交流を行っているため、評価Aは妥当である。</p> <p>②については、行事への参加を通して実態を自分で確かめ、正確な情報のもと正しい認識と理解をすることはきわめて大切である。そのような観点で各行事に参加し、それぞれ確認したことから評価Aは妥当である。</p> <p>「総合評価」は参観だけでなく、運動会などでは種目に参加し、子どもたちや保護者、教職員と同じ目線で取り組み、より多くの交流を目指している現状があり、評価Aは妥当である。</p> <p>○学校や園にとって、年間のさまざまな行事は児童生徒の発達上、非常に重要な活動であり、授業や日常の活動だけからは見えにくい人格的成長を見届けることができるものである。こうしたなか、教育委員各位の各学校・園への訪問は児童生徒の成長を目の当たりにする機会として非常に有意義である。</p> <p>項目①については、報告書にもあるとおり、保護者や地域の住民との会話などから貴重な意見が得られた様子がよく理解できる。今後の教育行政を執行するなかで重要になったことは想像に難くない。評価「A」は妥当である。</p> <p>また項目②においても、その行事に参加することにより児童生徒の活躍ぶりを参観することで、学校全体の取り組みや子どもたちの成長の理解が深まることは明らかであり、こちらも評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価についても、評価「A」は妥当である。教育委員各位が限られた時間のなかで、精力的に各行事に参加していくことは、大磯町の教育行政の充実のために不可欠である。</p>	<p>○行事への取り組み状況を把握することは、学校・園の日ごろの教育の成果の発表の場としてとらえることによって、日常の教育のあり方の検証も可能である。多くの人々に見られることで子どもたちはいつも以上の力を発揮しようと努力する。そうした姿を見るとともに地域住民との交流のチャンスでもある。</p> <p>コメントにあった交流拡大に向けた手立てとして、控え室のオープン化などもひとつのアイデアである。引き続き、大磯の子どもたちのためにさまざまな声を教育行政に生かしていただきたい。</p> <p>○教育委員各位が限られた時間において大磯町内の学校・園へ精力的に訪問されることに敬意を表するところである。</p> <p>しかし、一方で委員各位や事務局の多忙化も心配である。これらはトレードオフの関係となるが無理のない適切な参加が望ましいと感じる。</p> <p>大磯町という全国に誇れる環境をもつ地域として、さまざまな行事や地域住民との協力を通して教育のさらなる充実をめざしていただくことを願っている。</p>

Ⅱ 「平成27年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育

〈基本方針〉

学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえ、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

〈目標〉

1. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的人事交流も推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①教職員の研究・研修（かながわ学びづくり推進地域研究事業）
- ②いじめ問題への対応（「大磯町いじめ防止対策基本方針」に基づく取組み）
- ③中学校給食の実施（中学校給食実施に向けた調整・準備）
- ④読書活動の推進（学校図書館の環境整備）
- ⑤学校施設の整備（国府中学校体育館等改修・大磯小学校グラウンド改修）

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 教職員の研究・研修 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県教育委員会から「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の委託を受け、「みんなで取り組む 日常授業の改善」を共通テーマとして設定し、2小学校2中学校を研究推進校として実践研究に取り組んだ。各校の校内研究テーマを生かしながら、実践研究や研修を実施することができた。 ・各校の授業研究会や地区研修会への相互参加により、研究内容の交流を図ることができた。 ・大磯町教育委員会の交付金事業として「大磯 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○町の共通テーマを設定（日常授業の改善）することで、各校が取り組んでいる研究・研修の成果を、日々の授業に生かすということが明確になった。 ○各校の研究会へ相互に参加する意識がより定着し、大磯町の強みである公立幼・小・中の連携が一層深まった。 ○年間を通じて計画的に授業研究や研修会を実施していく校内体制が整えられ、学校及び町として同じ方向性をもって研究を進めてい

<p>学びづくり推進研究事業」を実施し、各校の研究の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファーストキャリアステージ教員研修会を開催することで、経験の浅い教員に対して年間を通じて研修を実施することができた。 		<p>くという意識が定着した。</p> <p>□経験の浅い先生が増えたことで、授業研究以前の、いわゆる教師として基礎・基本の部分を養成する研修等が必要である。</p>
<p>② いじめ問題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 3 月に策定した「町いじめ防止基本方針」に基づき、各校のいじめ防止基本方針の見直しを図った。 「町いじめ防止基本方針」に基づき、町内の関係機関の会議（区長会、民生委員児童委員協議会、学校警察連絡会議、防犯安全対策推進委員会等）に出席し、いじめ防止に係る取組を周知することができた。 「大磯町いじめ問題対策・調査委員会」を年 2 回開催し、町及び学校のいじめ防止に関する取組を協議し、改善に結びつけることができた。 県警察本部と学校警察連携制度を締結し、いじめに関する事案について、警察と連携する体制を整えた。 学校長等の経営者会議で各校のいじめ対応状況を報告しあい、町立学校全体としてのいじめ防止対策に結びつけることができた。 各校の教育相談コーディネーターや児童・生徒指導担当教員が集まる会議の中で、いじめ防止に関わる方策等を共有することができた。 いじめ認知した場合にすぐに教育委員会へ報告する体制を整えた。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○策定された「町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止のための周知等の取組を行った。 ○各校でいじめを学校全体の問題として捉え、組織で対応することが明確になった。 ○いじめ問題対策・調査委員会で協議した内容を各校に還元することで、いじめ防止に関する取組が充実した。 □いじめの認知に係る各校の意識の違いをなくし、共通して認知できるように、周知し続けることが必要である。 □学校だけでなく、保護者、地域、関係機関が具体的にいじめ防止に向けてどのような取組ができるのかを考えていく必要がある。
<p>③ 中学校給食の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校給食を、子どもたちの心身の健全な発達、食に関する正しい理解と適切な判断力の育成、望ましい食習慣と食に関する文化を学ぶ機会として位置付け、義務教育 9 年間の給食を通じた食育の推進を目的に、調理・配送委託方式による中学校給食を開始した。給食を通じ、食について考える機会を提供できた。 栄養士からの一言の全校放送や、スクールラ 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな事故も無く、給食を提供することができた。今後も継続することが望ましい。 □当初、学校現場と事務局の目的意識に温度差があった。少しずつ改善はしているが、目的を共有し、事業を進める必要がある。 □現在の委託契約満了後の給食の在り方を検討する必要がある。

<p>ンチニュースの配布、生徒会代表との話し合いを通じて、生徒達に食生活について考える機会を提供した。</p>		
<p>④ 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第二次子ども読書活動推進計画」に基づき、各学校ではそれぞれ特色ある取組みを進めた。 ・学校図書館司書を各学校に1名ずつ配置し、学校図書館環境の整備、蔵書管理等の充実を図った。また、図書館便りの発行や委員会活動との連携を通じて読書に親しむ機会を広げた。 ・学校図書館電算化を促進し、蔵書管理の円滑化・効率化を図り、レファレンス機能の充実を図った。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校ではボランティアによる読み聞かせが実施され、安定した読書習慣の形成に貢献している。 ○中学校で教科への図書資料の提供を通じて、読書に親しむ機会を広げた。また、図書委員会によるビブリオバトルの企画等、生徒が主体となった読書活動を新たに設けることができた。 ○学校図書館電算化により、児童生徒の興味・関心に沿った図書の案内がより迅速に行えるようになった。 □学校図書館電算化に伴い、中休み等の限られた時間に児童が集中するため、PCでの貸借の処理を1台で行うことに課題がある。 □さまざまな活動に取り組む中学生の図書貸し出し数は依然小学生と比較して少ない傾向にある。
<p>⑤ 学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大磯小学校グラウンド改修工事を実施した。 ・国府中学校体育館等改修事業について、耐震診断設計委託が完了し、耐震補強・改修工事を行った。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水はけが悪く、砂埃の問題があったグラウンドを改修し、安全で快適な学習環境を整えた。 ○平成26年度に実施した国府中学校体育館耐震補強・改修工事設計委託に基づき耐震補強工事を行った。併せて老朽化したトイレの改修や屋根の改修を行った。 □国府中学校体育館耐震補強・改修工事施行中に、天井材の劣化が新たに確認され、追加工事が必要となったため、平成28年度に事業を繰り越すこととなった。 □児童・生徒に快適な安全環境を提供するため施設の改修事業に取り組むことができたが、各施設とも老朽化が進んでおり、総合計画に位置付けるなど優先順位を付け、改修を行う必要がある。

(3) 教育委員による評価

① 教職員の研究・研修

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた授業を受けている児童・生徒が多く見受けられた。また、地域住民との懇談や訪問時の意見交換では、教職員の誠実な対応と努力がうかがえた。特に若手からの前向きで積極的な意見には感心させられる場面もあった。以上のことから研究・研修の成果は出ていると感じる。 ・幼稚園・保育園から中学校までの教育の流れの中で、児童生徒に、より良い保育や授業を展開するために、テーマを共有し研究と研修の充実を図っている。 ・各校の校内研究テーマや授業研究会、地区研修会への相互参加により、実践研究・研修の交流を図ることができ、一定の成果があったと言える。 ・各校の研究会、研修会、授業研究で若い先生の積極的な姿勢が見られ、方向性が整ってきたことを知ることができる。 ・以上のことからC評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して授業を受けてはいても、どの程度まで理解されているかが問題である。研究・研修の成果が児童・生徒の学力向上につながることを願う。また、教職員としての誇りを持ち、より一層資質を高め、児童・生徒はもちろんのこと保護者や地域住民から信頼されるよう努めて欲しい。 ・学力や体力の向上、いじめ防止や小1プロブレム、中1ギャップの問題など教育の課題が多様化する中で幼・保・小・中が連携した研究と研修を推進したい。 ・年間を通じて、計画的に授業研究や研修会を実施していく校内体制が整えられ、学校及び町として同じ方向性をもって研究を進めていくという姿勢が定着し、大磯町の強みである公立幼・小・中の連携が一層深まってきたように思える。 ・学校の教職員が、地域の人・保護者に挨拶ができるようになって欲しい。

② いじめ問題への対応

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく、地域や警察と連携する方針や対策が整ったことは大きな進歩である。いじめを学校全体の問題としてとらえる意識が高まり、いじめ防止対策に取り組んでいる様子がうかがえる。 ・基本方針の周知に努め、学校警察連携制度の締結や学校経営者会議の活用など、いじめ問題への対応の体制づくりを強く推進することができた。 ・県警察本部と学校警察連携制度を締結し、いじめに関する事案に対し、警察と連携する体制を整え、一方では、いじめを認知した場合にはすぐに教育委員会へ報告する体制を整えたと言える。 ・いじめ問題を学校、町全体の大きなものとして捉えることが明確になってきた。 ・以上のことからC評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは必ずあるという意識を常に持ち、小さな兆候を見逃さないことが大切である。また、いつでもどこでも起こりうることから、保護者や地域との連携は欠かせない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題は、防止と早期発見が求められることから、学校と保護者の共通理解と地域も含めた取り組みが必要である。 ・策定された「町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止のための周知等の取組を行い、学校だけでなく、保護者、地域、関係機関が具体的にいじめ防止に向けてどのような取組ができるのか、今後を考える上で重要になってくる。 ・何をいじめと認知するのかを明確にし、子どもたちからのサインを見逃さない、相談があれば相談者には対応状況を知らせるように望む。
--	--

③ 中学校給食の実施

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等を通じて生徒や保護者の意見を取り入れたり、広報活動を通じて中学校給食の意義を周知したりと不断の努力がうかがえる。また、メニューや量に改善を加えるなどの工夫も実施している。 ・継年の協議後、昼食の提供と食育の目的を明確にした中学校給食の実施が実現した。 ・子どもたちの心身の健全な発達、食に関する正しい理解と適切な判断力の育成、望ましい食習慣と食に関する文化を学ぶ機会として位置付け、中学校給食の実施を目的とし開始してきた。給食を通じ、大きな目的であった食について考える機会は第一歩を踏み出すことができたと言える。 ・生徒、保護者、町民に食生活について考える機会を提供している。 ・以上のことからC評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・いまだ理解が徹底しないのは残念であるが、引き続き、心身の健全な発達、食に関する正しい理解と適切な判断力の育成、望ましい食習慣と食に関する文化を学ぶ機会という観点から説得を続けることが大切と考える。 ・生徒への給食を通じた食育を、保護者をはじめ町全体で共有できるよう努めたい。 ・スタート時、学校現場と事務局の目的意識に温度差があったように感じていたが、その後は目的を共有し、少しずつ改善はしているように見受けられる。大きな事故もなく、給食を提供することができ、現時点では今後も継続する方向で行くことが望ましい。 ・全く手を付けない子や、少量しか食べられない子たちへの配慮を検討し、早急に欠食状態を作らないようにする努力が必要である。

④ 読書活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・行列のできる学校図書館の様子や図書委員会によるビブリオバトル等の活動から、各校への司書の配置や図書館の電算化は、読書活動に大きく貢献したと考える。 ・推進計画に基づき、司書の配置や電算化を図る一方で、学校ではボランティアとの連携や生徒が主体となった読書活動推進の企画が進んでいる。 ・「第二次子ども読書活動推進計画」に基づき、各学校ではそれぞれ特色ある取組を
-----	--

	<p>進めることができ、一方では、学校図書館の電算化を促進し、蔵書管理の円滑化・効率化を図り、レファレンス機能の充実も見受けられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館電算化が進み、子どもたちが読書に親しむきっかけづくりのアイデアを学校図書館司書が形にすることができてきている。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・電算化により、町立図書館の蔵書を有効活用できるようにはなったが、やはり学校図書館には新しくきれいな図書を置くべきである。一人あたりに必要な図書は校内に備えたい。今後とも読書や調べ学習に司書を有効活用したい。 ・中学生の図書貸し出し数が少ない理由を検証し、読書が学習や生活の中に取り入れられるように環境を整えたい。 ・スマホ等の多様化した社会における中で、少しでも読書に対する習慣の形成が必要になる中で、小・中学生の読書に親しむ機会が広がったように思える。 ・学校図書館の環境をより充実していく必要がある。

⑤ 学校施設の整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校グラウンドの改修により、子どもたちが伸び伸びと安全に体育や遊びに取り組めるようになった。また、中学校体育館の耐震補強・改修工事により、生徒の安全が確保できた。 ・安全な学習環境を整備するためにグラウンドや体育館を改修し、直近の問題は解消できた。 ・大磯小学校のグラウンド改修工事の実施や、国府中学校体育館等の改修事業について、一部追加工事が必要になったものの、無事終了したことは学習環境の整備のためには大切なことであった。 ・大磯小グラウンドの改修工事が終了し、子どもたちが縦横無尽に走り回る姿に、不便な期間を最短にして、成長に必要な学習環境を提供できたと感じる。 ・以上のことからC評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・相次ぐ大震災を受け、児童・生徒の命を守る改修については、引き続き予算を計上していきたい。 ・児童生徒の安全で快適な学習環境を保つことを念頭に置き、学校施設の改修を計画的に推進する必要がある。 ・児童・生徒に快適で安全な環境を提供するため施設の改修事業に取り組むことができたが、その他、各施設とも老朽化が進んでおり、今後より一層の早い対策を望みたい。 ・照明の不具合、図書館内の机や椅子の破損がある。 ・国府中学校の配膳室が保健室の隣に設置されたため、保健室利用者へ配慮した運用を望む。 ・子どもの動きを予想した上で施設や物品の安全点検を実施し、常に安全管理に気を配りたい。

2 子育て支援

《基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子どもたち一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。また、新たに策定した「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、子ども・子育て支援新制度を推進します。

《目標》

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指します。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できる「まち」を目指します。
5. 保育園における待機児童の解消に向けて、「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、子育て世代のニーズに即した取組を検討し実施します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 子育て支援の充実
- ② 放課後児童健全育成事業の充実
- ③ 幼稚園・保育園の連携
- ④ 保育園待機児童対策
- ⑤ 大磯町子ども・子育て支援事業計画の進行管理

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 子育て支援の充実 ・母親講座や子育て講座、交流会等のほか、新たにイクメン講座を開催し、育児を楽しめる男性（イクメン）の意識向上と父親同士の交流を図った。 ・CSP（コモンセンス・ペアレンティング）トレーナーを3名養成し、町立幼稚園等の子育て関連施設への配置を強化し、子育て中の親子への見守りや相談機能強化を一層図ると	A	○子育て支援総合センター 利用者数 14,175 名 相談件数 1,764 件 東部つどいの広場 利用者数 3,667 名 相談件数 493 件 ○イクメン講座 1 回 24 名 ○イクメン版やさしい子育て練習講座「そだ

<p>ともに、良好な親子関係を築くための育児力の向上を目的とした、やさしい子育て練習講座「そだれん」をイクメン版として父親向けに初開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファミリー・サポート・センター事業では、平成28年度からのサービス拡充を目指し、ヘルパー等の育児・家事支援の実施も踏まえサポート内容や運営方法を見直し、委託の検討を行った。 2歳児のいる全家庭に地区の民生委員・児童委員が訪問し、楽しく子育てができていますか等を確認するとともに、様々な不安や悩みを伺い、子育て支援に関する情報提供を行う“2歳児全戸訪問事業「にこにこ子育て応援団」”をスタートすることにより、子育ての孤立化を防止し児童虐待の発生予防の取組みを行った。 子ども発達支援では、子ども発達相談員として新たに言語聴覚士を配置し、ことばの相談&サポートルームを開設することにより、発語や言語行為に対する相談業務や支援の体制づくりを進め、子育て環境の整備を図った。また、集団サポートとして幼稚園や保育園等において集団生活に馴染めない子どもを対象にフォロー教室を開催し、教育・保育環境の整備を図った。その他、子育て中の保護者や支援者を対象にした「療育研修会」を初開催するとともに、子どもの行動に上手く対処し、親子がよりよいコミュニケーションで家庭生活を送れることを目的に「お母さんのためのペアレント・トレーニング」を神奈川県発達障害支援センターと共催し、相談しやすい環境や仲間づくりを進めた。 		<p>れん」1回4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やさしい子育て練習講座「そだれん」20回151名 ○ファミリー・サポート・センター 依頼会員数95名 援助会員数22名 利用件数240件 ○2歳児全戸訪問事業訪問件数189件 ○ことばの相談&サポート教室28件 ○集団サポート教室12回13名 ○療育研修会1回27名 ○お母さんのためのペアレント・トレーニング9回28名 <p>□養育支援訪問事業及びファミリー・サポート・センター事業でのヘルパー等による育児・家事支援の実施</p>
<p>② 放課後児童健全育成事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学童保育については、委託先社会福祉法人と連携を図り、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童を対象に、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、放課後児童支援員に対して神奈川県の実 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○(福)大磯町社会福祉協議会と(福)恵伸会に運営を委託し、適宜話し合いの場を持ち、円滑な運営に努めている。 ・大磯学童保育所入所児童数105人 ・国府学童保育所入所児童数79人

<p>施する研修参加を促し、支援員として必要な知識及び技術を取得することで保育の質の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室では、ボランティアや星槎大学学生の協力により、放課後の子どもたちの安全な居場所づくりに務めた。また、神奈川県大学、シルバー人材センターやスポーツ推進委員協議会等の協力により、夏休み中の特別教室やスポーツ活動を行った。 ・仕事と子育ての両立を支援するため、朝の子どもの居場所づくりモデル事業を1月から3月までの3か月間実施した。 		<ul style="list-style-type: none"> ○夏休み放課後子ども教室は、各小学校で4回実施した。(うち1回は合同) <ul style="list-style-type: none"> ・大磯小学校 年間開催数 31回 参加児童数 1,993人 ・国府小学校 年間開催数 38回 参加児童数 3,881人 ○朝の子どもの居場所づくり事業 <ul style="list-style-type: none"> ・大磯小学校 登録児童数 7人 平均利用児童数 3.6人 ・国府小学校 登録児童数 9人 平均利用児童数 0.4人 □学童保育入所児童数増加による保育スペースの確保 □放課後子ども教室・朝の居場所づくり事業のスタッフ確保と、放課後子ども教室の参加児童数増に伴う実施スペースの確保 □学童保育と放課後子ども教室の連携及び、全ての児童を対象とした放課後児童対策の検討 □朝の子どもの居場所づくり事業の利用促進
<p>③ 幼稚園・保育園の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併60周年事業として実施した幼保ふれあい交流会「いそっこフェスティバル」を年度事業として開催し、町内の幼稚園・保育園等の児童や職員間の交流を深めた。 ・国府地区の園（国府幼稚園、たかとり幼稚園、国府保育園）に通う年長児のスポーツ交流を行い、同じ小学校の同学年となる予定の子ども同士の交流を図った。 ・質の高い幼児期の教育・保育を推進するため、公立幼稚園・保育園の職員を対象に、指導力、保育を構想する力、実践力、得意分野の育成、小学校との連携推進力、保護者及び地域社会との関係を構築する力等を身につけ、教師としての資質向上を図る研修会を開催し、人材育成を図った。 ・公立幼稚園3園、保育園の間で学期ごとに教諭が相互に訪問し、他園の教育・保育を研修 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各園の代表から構成する運営委員会を開催し、円滑な運営に努めるとともに、職員間の交流を深めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加園数：7園 ・参加年長児童数：200人 ○幼保3園の交流（年長児の参加による） <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの遊び ・マラソン大会（3学期） ○研修会① <ul style="list-style-type: none"> 開催数：6回 講師：目白大学専任講師 松永愛子氏 テーマ：毎回異なる内容で実施 ○研修会② <ul style="list-style-type: none"> 開催数：1回 講師：野中信行氏（元小学校教諭・初任者指導アドバイザー） テーマ：「魅力ある教師とは」～リーダー

する訪問研修を実施した。		として何が必要か～
<p>④ 保育園待機児童対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 待機児童対策事業として、認定こども園の施設整備にかかる費用の一部を補助した。 平成 30 年度に国府幼稚園とたかとり幼稚園を統廃合し、国府幼稚園を新たに私立認定こども園として開設するため、保護者等への説明会を開催した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○認定こども園設置整備 対象園：認定こども園あおぼと 開園日：平成 28 年 4 月 1 日 定員 保育認定 2 号：24 人 3 号：7 人 ○国府・たかとり幼稚園統廃合に伴う説明会 開催回数：2 回 参加者数：85 人 □大磯町子ども笑顔かがやきプランに基づく、待機児童の解消に向けた取組みの推進
<p>⑤ 大磯町子ども・子育て支援事業計画の進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 大磯町子ども・子育て会議において、町の子育て支援の現状や、計画の進行状況について審議した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学識経験者や保護者の代表、教育・保育関係者から構成する「大磯町子ども・子育て会議」を 2 回開催し、計画の進行状況についての審議を行った。 □計画及びその進行状況の周知

(3) 教育委員による評価

① 子育て支援の充実

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設の利用や相談の件数、講座への参加人数から、支援が行き届いている様子を知ることができる。 子育ての主体は家庭にあることから、子育てを担う町民の様々な状況を勘案した講座の開催や相談・サポートを推進しており、その成果は、利用者数などから評価できる。 子育て支援の基本方針である「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」等々の目標や、重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策は、それぞれ十分に達成できたと思われる。きめ細やかな日々の努力が、それらを成しとげたと考えてよいと思う。 時代に見合った講座の開設に工夫が見られ、2 歳児の全家庭訪問により、子育ての孤立化や子育て世代の情報難民を防止している。 以上のことから A 評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物理的、心理的に施設を利用するのが難しい世帯に対し、訪問による支援は重要である。民生委員・児童委員と連携し、定期的な訪問を継続して欲しい。 家庭の育児力向上に資する講座を推進すると同時に、子育てに困難を感じている家庭への相談や支援にも努めたい。 諸計画や各行事等、保護者や地域の人々の理解を得て、十分対応できたと言えよ

	<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の集まる場所での案内や簡単な参加型講座等、気軽にのぞける出張型があれば良いと考える。
--	--

② 放課後児童健全育成事業の充実

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・登校前に出勤しなければならない保護者にとって、子どもを預ける場所ができたことは大きな安心になったと考える。 ・学童保育・放課後子ども教室ともに、法人との連携やボランティアと協力を図りながら、児童の安全な居場所づくりを実現し、スペースやスタッフの確保などの課題の解消について検討している。 ・それぞれの事業に対し、各法人との連携を図り、充実した対応ができたように思える。保護者や児童に対し、一定の理解も得ることができたように思える。 ・放課後子ども教室のボランティアに方々からの協力をあおぎ、育成への意義の浸透を図れている。子どもたちには様々な刺激を受けられる機会を提供し、関わる人々の異世代交流がある。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の居場所についての周知が進んでいない感がある。 ・朝や放課後の安全な居場所として、多くの児童を安心して預けてもらえるように、無理のないスペースの確保と適切な人の配置が望まれる。 ・それぞれの諸行事に対する広報活動も、ほぼ達成でき、それらが数字として表れている。今後も新しい課題に取り組むを十分にし、努力をお願いしたい。 ・朝の子どもの居場所づくり事業は登録者の声にも耳を傾け工夫が欲しい。

③ 幼稚園・保育園の連携

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問を通じて、幼保連携の効果を知ることができた。 ・園の職員が幼児期の教育の重要性を理解し資質の向上を図る研修会の開催や児童間の交流を重視した行事の実施は、大磯町の幼児教育の質の向上とともに、小1プロブレム等の課題解消に繋がっている。 ・町の合併60周年事業として実施した幼保ふれあい交流会「いそっこフェスティバル」を、年度事業として開催し、町内の幼保等の児童や職員間の交流はもちろんのこと、地域の交流にもはずみをつけたように思える。 ・昨年好評であった「いそっこフェスティバル」を年度事業として採用している。 ・職員を対象とした研修会は積極的な姿勢が見られて現場の意識が高まっていることが伺える。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の成長は、幼稚園や保育園から小学校へと不断に繋がっていくことから、小学校との連携も推進し、3園の教育力の向上に努めたい。

	・「町おこし」の一助として理解しているので、今後とも努力してほしい。
--	------------------------------------

④ 保育園待機児童対策

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の設置は、待機児童対策に役立っていると考ええる。 ・施設整備費用の補助や新たな認定こども園の開設など、待機児童解消に向けた施策を計画的に進めている。 ・既に平成 30 年度に国府幼稚園とたかとり幼稚園を統廃合し、国府幼稚園を新たに私立認定こども園として開設するため、保護者等への説明会を開催し、また、待機児童対策事業としては、認定こども園の施設整備に係る費用の一部を補助したことは意味あることであった。 ・統廃合に伴う説明会では保護者の心配に共感して、妥協案を提示していた。 ・待機児童の解消への取り組みがある。 ・以上のことから B 評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に安心して子どもを預けることのできる場所があれば、働く世代の移住が見込める。 ・現行の 2 幼稚園を統廃合と新たな認定こども園開設にあたり、保護者の不安や要望、在園児の保育環境についても丁寧な対応が必要である。 ・他市町村の取組は別として、大磯町は待機児童の解消に向けた取組の推進は、特に問題ないと考ええる。 ・これまで国府幼稚園を支えてくださっている地域の方たちにも理解され、大切にされるような子ども園となるよう進め方に配慮が必要である。

⑤ 大磯町子ども・子育て支援事業計画の進行管理

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・支援事業計画が子ども子育て会議の審議を通して、着実に進行されている。 ・大磯町子ども・子育て会議において、町の子育て支援の現状や計画の進行状況について審議したが、内容の進行状況の周知も今後もっと必要になる。 ・計画の策定から新制度に進行した。 ・以上のことから B 評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・町の「子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、子育て支援の充実に向けた事業を継続し、その周知に努めたい。 ・大磯町子ども・子育て会議も 2 回開催し、今後の計画の進行状況について審議を行い、今後の動きを評価したい。 ・実際に現場に躓<small>つまづ</small>きがおこっても対処できるような適切な回数の審議がされることを望む。

3 生涯学習

《基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民が主体となった地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境整備を行い、成熟した生涯学習環境社会の実現を目指します。

《目標》

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らを高め、更に学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまちづくりを目指します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存し、文化芸術活動への支援や町民の活動を推進することで、町民が郷土の素晴らしさを再認識できる生涯学習のまちづくりを進めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理
- ②「生涯学習人材登録」の周知と活用
- ③生涯学習館の環境整備
- ④人権啓発活動の推進
- ⑤文化財資料等の保存・活用

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果(○)と課題(□)
①「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理 ・生涯学習事業進行管理表により評価、課題等の把握を行った。 ・生涯学習推進連絡調整会議を年1回、生涯学習推進会議を年2回開催した。	B	<input type="radio"/> 進行管理表を改定し、課題に対する今後の対応についての表記欄を設けることで、課題解決への過程を把握することが可能となった。 <input type="checkbox"/> 自己評価の標準化と各事業の周知方法について更に検討の余地がある。
②「生涯学習人材登録」の周知と活用 ・人材登録制度を周知するとともに、人材登録者を講師とした講座を開催した。	B	<input type="radio"/> 人材登録された方を講師に、5講座延9回の「人材登録活用講座」を開催することができた。 <input type="checkbox"/> 県生涯学習システム「PLANET かながわ」

		<p>の一層の周知が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/>講座名の再検討が必要である。</p>
<p>③ 生涯学習館の環境整備</p> <p>・生涯学習館のLED照明化を実施した。</p>	B	<p><input type="checkbox"/>生涯学習館 1 階研修室、2 階集会室、2 階階段踊り場、別棟講習室の照明を LED に交換し、より活動しやすい環境に整えるとともに電力省力化に寄与することができた。</p> <p><input type="checkbox"/>施設の長中期的な計画のもと、更に施設の多機能化を進める必要がある。</p>
<p>④ 人権啓発活動の推進</p> <p>・「幸せな人生は人の役に立つこと」をテーマに人権教育講演会を開催した（H27. 11. 11）。</p> <p>・入庁 1 年目の町職員及び任期付職員を対象に人権研修会を実施した（H27. 12. 8、12. 10）。</p>	B	<p><input type="checkbox"/>人権に関わる課題が多岐に広がりを見せる中で、積極的に研修会や会議等に参加することで、幅広く情報を収集し、人権研修会等に活かすことができた。</p> <p><input type="checkbox"/>人権教育講演会の開催日程については、引き続き検討する必要がある。</p>
<p>⑤ 文化財資料等の保存・活用</p> <p>・大磯教会礼拝堂、門柱及び塀について、文化財登録原簿への進達依頼及び意見を提出した。</p> <p>・埋蔵文化財の対応について見直しを図り、平成28年度からの実施に備えた。</p> <p>・文化財の定期的な巡回調査を実施し保護保全に努めた。</p>	A	<p><input type="checkbox"/>大磯教会礼拝堂、門柱及び塀について、国の文化審議会を経て国登録有形文化財として登録された。</p> <p><input type="checkbox"/>遺跡包蔵地図の整備および埋蔵文化財の対応方法について見直すことで、平成 28 年度以降の窓口対応の明確化と簡略化が期待される。</p> <p><input type="checkbox"/>文化財の定期巡回調査と、気象状況による臨時巡回調査を徹底することで、常に状況把握をすることができた。</p> <p><input type="checkbox"/>天然記念物や史跡のみならず、巡回調査の範囲を広げることを検討する必要がある。</p>

（3）教育委員による評価

① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理

<p>評 価</p>	<p>・事業を推進するにあたり、定期的な振り返りと反省は大切である。</p> <p>・計画を進行・管理する中で、課題の発見や対応に努力している。</p> <p>・不特定多数の地域の人々のいる中で、生涯学習の推進計画を行うことは、本当は</p>
------------	---

評 価	<p>大変なことであるが、そのための会議の開催を行ったことは大きな意味のあることである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理表の改定、課題への今後の対応について把握する取り組みがなされたことは、とても大切なことであるので期待する。 ・ 以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の周知方法等、課題解決に向け、広く意見を募ることも検討したい。 ・ 生涯学習の施策の推進は、町民のニーズや社会情勢の変化に対応しながら、進行・管理を行いたい。 ・ 「生涯学習の推進計画」の進行や、課題に対する対応については、さらに検討の余地があるように思える。 ・ 各事業の周知が広く行われることを望む。

② 「生涯学習人材登録」の周知と活用

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご登録いただいた方々にご活躍いただく場を提供できた。 ・ 「生涯学習人材登録」を利用して講座を開催するなど、町民の学習活動の活性化を図っている。 ・ 人材登録制度を周知するとともに、人材登録者を講師とした講座を開催したことは評価できる。 ・ 様々な分野で活躍する人材の発掘になり、地域の教育力の向上になる可能性が高い。 ・ 以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登録のしくみや人材の活用につき、さらなる周知に努めるべき。 ・ ICTを活用した「PLANETかながわ」に参加していることから、その活用を周知し、学習情報の提供に努めたい。 ・ 人材登録された方を講師に、講座を開催することができたことは評価できるが、他の講師の人選や、内容に今一度検討してほしい部分がある。 ・ 「PLANETかながわ」を公共施設等、気軽にのぞける環境があればと思う。

③ 生涯学習館の環境整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間、大勢に利用していただく施設として照明のLED化は効果があったと考える。 ・ 生涯学習館のLEDの照明を実施し、よりよい環境と電力省力化に寄与できたことは評価できる。 ・ 以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な利用に応じることができるよう、引き続き、防音等の改修につき計画的に検討を進めるべきである。 ・ 生涯学習館は、建物以外に芝生の前庭も利用可能であり、町民の学習活動の場と

改善事項等	<p>して整備を進めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の長中期的な計画のもと、更に施設の多機能化を進める検討の必要があろうかと思う。 ・必要箇所の修繕、改修を行い、良い環境を提供していく必要がある。
-------	--

④ 人権啓発活動の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・地道に活動は遂行された。また、人権問題が多岐にわたってきた昨今、課題に沿った啓蒙活動が行われたことは評価できる。 ・講演会や研修会は、参加者一人ひとりが様々な差別や偏見を越えて、人権意識を高める学習機会となった。 ・一人一人が幸福な生活を目指し、社会の機運を受けたテーマを探して研修会をしている。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日が一時期に集中している点、今後の検討課題としたい。 ・講演会は、多くの町民が参加できる日程を調整し、人権意識を共有して、誰もが生き生きと暮らせる大磯町の実現に繋げたい。 ・人権教育講演会の講師の人選や開催日程については、引き続き検討する余地がある。

⑤ 文化財資料等の保存・活用

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・大磯教会礼拝堂、門柱および塀が国登録有形文化財として登録されたことは町の歴史的建造物を守るためにも重要である。 ・様々な文化財への対応の見直しや調査を行う一方で、有形文化財を新たに国登録としている。 ・文化財の定期的巡回調査や、気象状況による臨時調査を徹底することで、常に状況把握することができたことは評価できる。 ・以上のことからA評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財資料等の経年劣化とともに災害による被害も心配される。定期的な巡回調査は大事である。 ・文化財資料は、町の財産として良好に保存され、町民の郷土意識の醸成に繋がるよう活用していきたい。 ・天然記念物や史跡のみならず、巡回調査の定期的な調査の範囲を広げることは、今後は更に必要になってくるのではないか。 ・文化遺産の保護を推進するためにも、町民が文化財に親しむ機会を提供する。

4 図書館

《基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書斎としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

《目標》

1. 多様化する町民ニーズに応える、親しみの持てる施設として図書館が活用されるよう、レファレンスサービス(*)に力を入れ、読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。特に、幼児期の人格形成・知恵の習得に役立つような本と出会える機会を作り、図書館が「本とのふれあいの場」として活用されることを目指します。
3. 生涯学習の拠点として快適な環境を提供するため、老朽化した施設・設備の改善を計画的に進めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①資料の整備・収集と提供の充実
- ②子ども読書活動の推進
- ③学校図書館の電算化の推進

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果(○)と課題(□)
①資料の整備・収集と提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回選定委員会会議を開催して、「週刊全点案内」を中心に図書の選定を行った。 ・レファレンスサービスの充実のため、本館「町の資料室」の参考図書の更新を図った。 ・図書リサイクルコーナーを拡充して、無償提供図書の充実を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○町民のニーズを把握して、4,716冊の図書、156点の視聴覚資料を購入した。 ○26,392件の予約・リクエストを受付けた。 ○2,136件のレファレンスを受付、資料提供を行った。 ○6,546冊の図書を除籍し、図書館まつりの古本市に出品するなど、ボランティアと協働で図書のリサイクルを行った。 □資料の更新を適切に行い、蔵書構成の整備に努める必要がある。
②子ども読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発達段階に応じた各種行事をボランティアと協働で実施した。 ・読書への関心を高めるため読書通帳を作成し 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各種行事に2,190名の参加があった。 ○読書通帳を2,000部作成し、707部を配布した。

<p>て、配布を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書に出てくる本、書評で紹介された本を中心に児童書を選定購入した。 		<ul style="list-style-type: none"> ○児童書 629 冊を購入し、本館・分館の蔵書の更新を行った。 □各種行事の開催を通じて図書館利用の促進に努める必要がある。 □各年齢層に対応した幅広い分野の図書の選定に努める必要がある。
<p>③学校図書館の電算化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大磯・国府両中学校図書館のパソコンに蔵書・発注管理システムを導入した。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校図書館の購入図書の発注、受入の電算化を達成した。 ○小中学校図書館の蔵書の電算化を進めた。 ○貸出・返却の電算化の準備を進めた。 □図書館と学校図書館の電算ネットワーク化に向けた具体的な検討を進める必要がある。

(3) 教育委員による評価

① 資料の整備・収集と提供の充実

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館の使命ともいえる参考図書を更新したことは、評価すべきである。 ・町民のニーズを把握して計画的に資料の整備を行い、内容の更新に力を注ぎ生涯学習の拠点としての役割を果たしている。 ・以上のことから A 評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の居場所として十分利用されるよう、引き続き、図書の更新とレファレンスに力を入れて欲しい。 ・予約やリクエスト・レファレンスの受付件数などから、町民のニーズを把握し、蔵書資料の充実を図りたい。 ・資料の更新を適切に行い、蔵書の構成の整備に努める必要があろう。

② 子ども読書活動の推進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行われる活動への参加状況から、推進が順調に行われていることがうかがえる。 ・子ども達の読書への興味関心が高まるような行事を工夫し、図書館利用を推進している。 ・各種行事の開催を通じ、図書館利用の促進と、各年齢層に対応した幅広い分野の図書の選定ができたことは評価できる。 ・本を購入する際の選定にも工夫が見られ、子どもたちが本を手にする環境を提供している。 ・以上のことから A 評価が妥当である。
------------	---

改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代だけでなく、子育てを過去に経験した世代へも活動の輪が広がればよいと考える。 ・「読書ばなれ」が進む中、子ども達が図書館を訪れ、本と触れ合うきっかけとなるような行事の実施を強化したい。 ・今後は更に幅広い分野の図書選定や、より一層の図書館利用の促進に努める必要があるだろう。 ・各行事のボランティアの育成や、人材を確保する必要がある。
-------	---

③ 学校図書館の電算化の推進

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の電算化により、図書の発注や受入れ作業、貸出返却が簡易化したことは、子どもの読書活動に役立ったと考える。 ・児童生徒の読書活動充実に向けて、電算化が計画的に推進されている。 ・小・中学校図書の発注・購入・受入の電算化、蔵書の電算化を達成できたことは評価できる。 ・各学校の図書館が子どもたちの癒しの場としても成り立っている。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・司書をはじめ図書委員やボランティアとも連携し、学校図書館の蔵書充実に努めて欲しい。 ・電算化には多岐にわたる作業段階があるが、スピード感をもって推進したい。 ・図書館と学校図書館の電算ネットワーク化に向けた具体的な検討をどう進めていくのか考える余地があるだろう。 ・図書館として利用できる使いやすい環境づくりに努める。

5 郷土資料館

《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① リニューアルオープンに向けての事業の推進
- ② 旧吉田茂邸オープンに向けての事業の推進
- ③ 展示・教育普及活動の充実

(2) 課題別点検評価

達成状況 A：十分に達成 B：達成 C：概ね達成 D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず

実施状況	達成状況	成果(○)と課題(□)
① リニューアルオープンに向けた事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度の基本設計、平成 26 年度の実施設計に基づき、展示リニューアル工事を着工した。 ・リニューアルオープン後の運営に関して、検討を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○展示リニューアル工事に着手し、計画的に作業を進めた。 ○これまで打ち合わせてきた基本構想、基本設計、実施設計の流れのもと、リニューアルオープン後の運営の枠組みについて、検討を行った。 □リニューアルオープン後の具体的な運営の手法について、更に検討を進める必要がある。
② 旧吉田茂邸オープンに向けた事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度の基本設計、平成 25 年度の実施設計に基づき、再建工事を行った。 ・旧吉田茂邸再建検討会議を開催し、利活用について協議した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度に引き続き、旧吉田茂邸の完成を目指し、再建工事を進めた。 ○オープン後の利活用について、方向性をまとめることができた。 □オープン後の展示資料を決定するとともに、調度品の整備を進めていく必要がある。
③ 展示・教育普及活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・年間で4回の企画展を開催した。 (①「大磯の災害」パネル展、②企画展「海 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土資料館リニューアルオープン、旧吉田茂邸オープンの準備作業を進めながら、ほ

<p>の中の植物・海藻」、③企画展「用田村伊東宗兵衛家文書の世界」、④「大磯の災害」パネル展)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継年的に実施してきたワークショップを引き続き実施した。 (①古文書裏打ちクラブ、②古文書解読クラブ、③大磯自然観察会、④海の森クラブ、⑤海の教室) ・新規講座として、歴史講座を実施した。 		<p>ば例年どおりの企画展の回数を開催した。入館者数は平成24年度と同程度の25,000人を超えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画的に事業を進め、ワークショップを52回開催した。延べ594人の方々にご参加いただいた。 □リニューアルオープン後の企画展の開催計画を決め、準備を進める必要がある。
--	--	--

(3) 教育委員による評価

① リニューアルオープンに向けての事業の推進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ計画通りにリニューアル事業を推進できた。 ・計画的に作業を進め、展示リニューアル工事に着手できた。 ・郷土資料館の視察を行ったが、今後のオープンに向けて大変興味をもて、楽しみが増えたことは大いに評価できる。 ・展示リニューアル工事に着手し、オープンが楽しみである。 ・以上のことからB評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル後の運営については、利用者の立場になって検討を進めたい。 ・展示リニューアルによって博物館サービスが向上するよう、オープン後の運営について検討を進める必要がある。 ・リニューアルオープン後の具体的な運営について、多くの意見を聞くことも必要であるが、目玉のテーマを作ることも必要になってくるのではないか。 ・リニューアルオープン後もリピーターを呼び込める運営に期待する。

② 旧吉田茂邸オープンに向けた事業の推進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町としては大規模な事業となったが、事故もなく、オープンに向けての準備が進められた。 ・計画的に再建工事を推進し、有効な利活用を目指している。 ・以上のことからB評価が妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再建にかかった費用と時間を回収すべく、今後の利活用につき、検討したい。 ・建物を再建するだけでなく、学びの場として有効活用できるよう検討を進めたい。 ・一度、視察をしたが、今のところ十分な内容である。 ・会議室の利用の仕方、目的に再度の検討が必要ではないか。 ・展示資料の決定や、調度品の整備・維持に計画性を持つ。 ・何回か事業の提案をしたので、その後の検討状況について報告がほしかった。

③ 展示・教育普及活動の充実

評 価	<ul style="list-style-type: none">・リニューアル中の活動として、巡回展示を行ったことは評価すべきである。・例年通りの企画展やワークショップの継続や、新たな講座の実施により、町民の学びの機会を提供している。・大磯町の歴史への興味や、今後の街のなりたちへの再考など考えさせられることが多くあったことは、企画展に対する大きな評価につながっていると言える。・ワークショップが開催され、参加も定着しており学習機会を提供している。・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none">・リニューアル後の利用状況を調査し、今後の活動の参考としたい。・展示リニューアルと旧吉田茂邸オープンを踏まえ、町民の郷土への理解や愛着が深まるような企画を推進したい。・幅広く、多くの意見を聞くことも必要な時がやってくるので、今後に期待したい。

Ⅲ 資料編

1 関係法令

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

①今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

②現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。

③点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/1433505337385.html>

3 平成 27 年度 教育委員会基本方針

平成 27 年 2 月 19 日大磯町教育委員会第 11 回定例会で決定

大磯町教育委員会では、教育委員会の活動に対し、自らの点検・評価及び外部評価を実施し、その責任体制の明確化や体制の充実を図るとともに、地方教育行政の推進に努めてまいりました。

大磯町教育委員会は、幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、就学前教育から義務教育行政を一貫して実施していく体制の中で、学校関係者、保護者及び地域住民との連携を深めながら、様々な教育課題に取り組むとともに、生涯学習推進計画に基づき、生涯学習の充実に努めてまいります。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を受け、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、町長との連携の強化を図り、地域の教育課題や目指すべき姿を共有して、教育行政の推進を図るよう努力していきます。

〈義務教育の基本方針〉

学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえ、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

〔目標〕

1. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協働体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的な人事交流も推進します。

〔重点施策〕

1. 小学校・中学校

- (1) 引き続き県教育委員会から「かながわ学びづくり推進地域研究事業」の委託を受け、各学校において、児童・生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、「分かる楽しい授業の創造」に向けた実践研究・研修を実施し、教師の指導力向上、児童・生徒の学力向上を目指します。
- (2) 各学校において、ティームティーチング(*)や少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努めます。
- (3) 小学校低学年での実施を基本として 35 人学級編制を実施します。また、中学校における生徒指導及び進路指導等の課題に対応するため、必要に応じ、35 人学級編制の実施を支援します。
- (4) 幼児・児童・生徒の連続的な学びと成長を図るため、幼稚園・保育園と小学校及び小学校と中学校の連携を継続して進めます。
- (5) 教職員の専門性や指導力向上に向けた研修、電子黒板・デジタルテレビ・タブレット P C 等

I C T (*) 関連機器の効果的な活用についての研修等の充実に努めます。また、いじめ・体罰防止のための研修、適正な評価処理の研修など安全管理及び教員の事故・不祥事防止に努めます。

(6) 各学校における「食育」の推進のため、大磯町で策定した「第2次大磯町食育推進計画」と各学校における「食育の全体計画・食育の年間計画」を基に、栄養教諭による小・中学校への情報提供や授業支援などのサポート体制も活用し、食に関する指導を積極的に実践します。また、中学校給食については、教育委員会の意見書に基づき、その実施に向けて学校や関係機関と引き続き調整を進めていきます。

(7) 支援を必要とする児童・生徒の実態に応じて教育支援員の配置を充実させるとともに、個別的な学習支援に対応するため、指導協力員の配置を進め、児童・生徒に対する支援体制の強化を図ります。

(8) いじめ・不登校・虐待をはじめとする様々な課題に対応するため、スクールアドバイザー (*) を中心に、各学校の教育相談コーディネーター、スクール・カウンセラー、心の教室相談員などの相談支援体制を充実するとともに、県教育委員会から派遣されるスクール・ソーシャルワーカーや県立特別支援学校のセンター機能を活用し、教育相談及び児童生徒指導体制について一層の充実を図ります。また、「大磯町いじめ防止対策基本方針」に基づきいじめ問題への取組を着実に進めます。

(9) 読書活動の推進のため学校図書館司書の配置の充実を図り、学校図書館を子どもたちにとって親しみやすい場所にするとともに調べ学習のニーズへの確にこたえられるようにします。また、子どもたちがより一層読書に親しむ機会と推奨すべき図書の提供に向け、学校図書館のシステム化を進めるとともに、大磯町立図書館との連携を図ります。

(10) 「開かれた学校」づくりを通じ、学校とP T A・地域・関係諸機関との協働・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、地震や津波などに対する防災対策や防犯・安全体制の一層の強化に努めます。

(11) 児童・生徒の体力向上について、「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、各学校の取組状況を検証し、引き続き特色ある取組を推進します。また、各学校において、新体力テスト (*) を実施し、その結果に基づく体力向上の取組を東海大学との連携事業も活用して推進します。

(12) 国府中学校体育館等改修について、耐震補強・改修設計を行い、改修工事実施に向けて準備を進めます。また、大磯小学校グラウンド改修工事を行い、安全で快適な教育環境の整備に努めます。

(13) 授業におけるタブレット型P Cの積極的な利用を含め、I C Tを活用した教育のさらなる充実を図ります。

2. 教育研究所

(1) 教職員の自主的な研修ならびに調査・研究の充実を図ります。小学校社会科副読本「わたしたちの大磯」改訂版を発行し、理科副読本「大磯の自然（植物編）」の改訂作業を進めます。

(2) 教職員を対象に人権研修を始めとした研修の機会を設定し、教職員の資質向上・指導力向上を図ります。また、児童・生徒を対象とした講座を開催します。

(3) 教育研究所に配置しているスクールアドバイザーや適応指導教室専任教諭により、生活面や学習面で発達的・心理的・情緒的な問題を抱えている子どもたちに対する支援を行い、その保護者と関係教職員に対する教育相談等を行います。

(4) 教育研究の拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理を進め、活用を図ります。

《子育て支援の基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子どもたち一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。また、新たに策定した「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、子ども・子育て支援新制度を推進します。

〔目標〕

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前児童の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指します。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できる「まち」を目指します。
5. 保育園における待機児童の解消に向けて、「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、子育て世代のニーズに即した取組を検討し実施します。

〔重点施策〕

1. 町立幼稚園では、園児の実態に応じ、教育支援員の配置を充実させるとともに、預かり保育を拡充することで子育て支援を推進します。
2. 保育園では、引き続き、特別に支援が必要な園児への保育を実施するとともに、延長保育・一時保育・休日保育等の保育サービスの充実努めます。
3. 子育て支援総合センターに配置する臨床心理士が幼稚園や保育園を巡回することで、保護者や教職員の相談に対応する体制の充実を図ります。
4. 「第2次大磯町食育推進計画」に基づき、町立幼稚園・保育園における「食育」を推進するとともに、保育園では、引き続き3歳児以上の完全給食を実施します。
5. 町立幼稚園・保育園内外の防犯・安全体制づくりを推進します。また、地震や津波などに対する防災対策の強化に努めます。
6. 「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」に基づき、子育てコンシェルジュ(*)を活用した利用者への情報提供等の支援を行うとともに、子育て世代のニーズに対し必要な保育を提供する施設等へ給付制度を活用した助成を行い、待機児童対策を進めます。
7. 幼稚園及び保育園から小学校へ円滑に移行できるよう、共同での行事や研究会、意見交換の機会を設け、小学校との連携を図ります。
8. 「放課後児童健全育成事業」及び「放課後子ども教室推進事業」の充実を図るとともに、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、国の「放課後子ども総合プラン」に基づき、総合的な放課後対策事業の実施に向けて検討を進めます。
9. 子育て支援総合センターにおいて、子育て中の保護者に対し育児相談や母親講座及びイクメン講座を実施するとともに子育て支援情報等を提供していきます。
また、つどいの広場、ファミリー・サポート・センター事業の拡充を行います。

10. 子育て支援総合センターを拠点とし、児童虐待・子ども発達支援等について、関係機関との連携を図りながら子育て・親育ちの支援体制づくりを行います。
11. 施設型給付を受けない私立幼稚園に通う園児の保護者に対し、引き続き世帯の課税状況に応じて保育料等の補助を行います。
12. 子ども・子育て支援新制度を推進するために、引き続き大磯町子ども・子育て会議を開催し、「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」の進行管理を行います。
13. 「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、各園で園児の運動経験が広がるように特色ある取組を進めます。

《生涯学習の基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民主体の地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境を整備し、生涯学習社会の実現を目指します。

〔目標〕

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らを高め、更に学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、人と人とのつながりが広がるよう、町民の文化芸術活動を支援します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存・周知することにより、町民が郷土の素晴らしさを再認識し、新たな発見ができる生涯学習のまちづくりを進めます。

〔重点施策〕

1. 「大磯町生涯学習推進計画」を指針とした生涯学習を推進するため関係団体とともに、生涯学習推進会議を開催し、要望や課題を整理し事業へのフィードバックについて議論します。
2. 「生涯学習人材登録」と県生涯学習システム「PLANETかながわ」を活用した講座を開催するとともに、町民の主体的な生涯学習活動を支援するための町内生涯学習情報の提供に努めます。
3. 大学と連携することで、最新の研究成果や特色のある学習機会の提供を図ります。また引き続き、生涯学習館に最新機種のパソコンを導入し、学習環境を整備していきます。
4. PTAや子ども会による家庭教育事業の開催を支援し、時勢に応じたファミリー教室の内容充実を図り、学校・家庭・地域が一体となった生涯学習の推進に努めます。
5. 青少年指導員、PTA連絡協議会、その他関係団体と協力して青少年の健全育成に努めます。
6. 文化・芸術の活性化を図るため、文化祭運営委員会との連携により「おおいそ文化祭」への自主的な参加を支援します。
7. 社会教育施設（生涯学習館、図書館、郷土資料館）をはじめとした生涯学習関連施設・機関との連携により、横断的な生涯学習の推進に努めます。
8. 生涯学習館使用者の安全確保及び環境改善のための修繕を行います。また自主的な生涯学習を促進し、生涯学習館の利用拡大を図ります。
9. 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを目指し、身近な問題として人権意識を高める人権教育講演会や学習の機会を設けます。
10. 文化財資料等の保存・活用を図るため、蓄積された資料の整理を行いません。
11. 町内に所在する指定文化財等の候補について、文化財専門委員会への諮問等、指定に向けた手続

きを進めます。

12. 文化財の保全を図るため、定期的な巡回調査を行うとともに、消防署等との連携による文化財防火巡回及び文化財消防訓練を実施します。

《図書館の基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

〔目標〕

1. 多様化する町民ニーズに応える、親しみの持てる施設として図書館が活用されるよう、レファレンスサービス(*)に力を入れ、読書環境の整備に努めます。
2. 学校図書館と連携し、子どもたちの本との出会いが自主的な読書活動に繋がるよう支援します。特に、幼児期の人格形成・知恵の習得に役立つような本と出会える機会を作り、図書館が「本とのふれあいの場」として活用されることを目指します。
3. 生涯学習の拠点として快適な環境を提供するため、老朽化した施設・設備の改善を計画的に進めます。

〔重点施策〕

1. 町民ニーズや社会動向の把握に努め、資料を幅広く収集します。また、参考図書(*)の充実や更新を図り、蔵書の整備を進めます。
2. 児童文学講演会、ブックスタート(*)、ブックトーク(*)、ブックリストの作成、読書通帳、「読書の時間」(*)の推進など、子どもたちの読書・学習環境の整備を進めます。
3. 小学校4年生の学級招待、幼稚園及び保育園の図書館見学を行うことにより、豊富な本の中から自分に合った本に出会うことで、本に対する関心が深まるよう、事業を推進します。
4. 子どもたちと本を結ぶ、おはなしボランティアを養成するための講座を開催し、人材の育成を行います。

《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

〔目標〕

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

〔重点施策〕

1. 策定された郷土資料館展示リニューアルの基本設計、実施設計に基づき工事を行うとともに、整備後の運営に関して検討を進めます。
2. 策定された旧吉田茂邸再建の基本設計、実施設計に基づき工事を行うとともに、再建後の運営に関して検討を進めます。
3. 地域情報を幅広く且つ深く掘り下げる機会として、常設展示では取り扱っていないテーマに着目した企画展やワークショップを開催し、利用者や他施設との連携、協働による博物館活動を展開します。

4. 資料の収蔵方法を再考します。また、燻蒸を実施し、資料を良好な状態で保存するためのより良い環境づくりに努めます。
5. 収蔵資料のデータベースの整備を進め、資料の効果的な管理を行います。
6. 広報紙やインターネット等、多様な媒体を活用した広報活動に努め、町内外に向けて館の活動内容や地域資料の情報を発信します。

【*用語の解説】

ティームティーチング

複数の教師が協力して行う授業方式の一つ。略称T T。リーダーの教師を中心として、何人かの教師たちが協力しあい、授業を行う。

ICT

Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する[技術一般](#)の総称である。[従来](#)用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられるもので、「[コミュニケーション](#)」が加わっている点に[特徴](#)がある。

スクールアドバイザー

各学校において支援体制の構築及び相談機能の充実、教職員との協力体制を密にする目的で教育研究所に配置した臨床心理士。

新体カテスト

文部科学省が実施する体力、運動能力テスト。1999年これまでのスポーツテストを全面的に見直し導入された。

子育てコンシェルジュ

子育て中の保護者からの相談を受け、それぞれのニーズに合った子育て支援に関する情報提供や保育サービスを分かりやすく案内し、子育て中の方を応援する相談員。

レファレンスサービス

利用者が必要とする情報・資料を図書館員が検索・提供・回答する業務。

参考図書

特定の知識・情報を各項目ごとに一定の体系順に配列することによって、特定の項目を容易に調べられるようにした図書のこと。百科事典、各種辞典、ハンドブック、地図、年表、目録、索引、書誌、年鑑など。

ブックスタート

一人ひとりの赤ちゃんに、絵本を開く楽しい体験と一緒に、絵本を手渡す活動。本町では4ヶ月児健診時に実施している。

ブックトーク

テーマを決め、何冊かのさまざまなジャンルの本をテーマに関連付けながら紹介し、本への興味を喚起すること。主に児童（小学生）を対象に実施している。

読書の時間

家庭での読み聞かせ及び家庭での共通の話題となるような、図書の充実と啓発活動のこと。

平成 28 年度（平成 27 年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 教育部 学校教育課

〒255-8555 大磯町東小磯 1 8 3

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/index.html>

発行 平成 28 年 11 月